

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県山県市

自治体名：岐阜県山県市

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0581-22-6845

1.自治体の基本情報

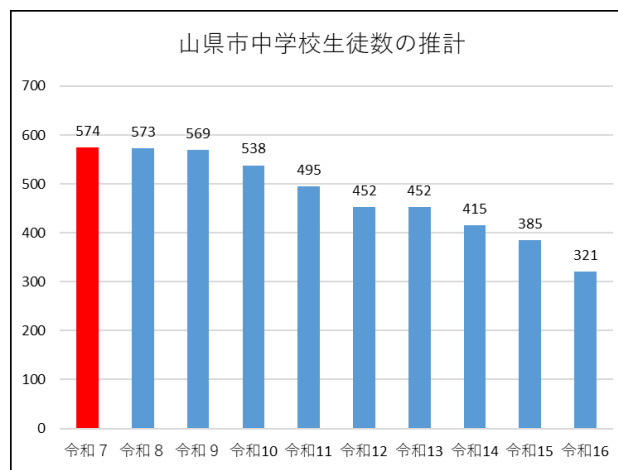
基本情報

面積	221.98km ²
人口	24,476人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	574人
部活動数 (運動部活動のみ)	15部活
地域クラブ活動数	13クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

1 現状

- ☐ 部活動加入率75%（前年比4%減）
 - ・運動系71%、その他29%
- ☐ 平日活動日 週1日（冬季はなし）
 - ・3校合同部活動（スクールバス送迎）
- ☐ 今後10年間で市内中学生56%に減少
 - ・現在574人→令和16年321人
- ☐ 市合同部活動の推進（後期完了）
 - ・運動系15部、その他5部
- ☐ 総合型地域スポーツクラブとの連携
 - ・2001年度から休日は地域で実践



山県市立小・中学校の児童生徒数推計表より作成

2 課題

- 地域展開関係三者の連携強化
- 休日部活動の地域展開の拡大
- 指導改善につながる生徒の意識調査実施
- 休日部活動移動支援バスの運行支援
- 指導者のスキルアップを図る研修会開催

「山県市中学校部活動及び地域クラブ活動の現状」

1 部活動加入率の推移

年度	5	6	7
加入率	85	79	75

2 部活動形態の推移

年度	5	6	7前期	7後期
運動部数	25	23	18	15
市合同	7	10	12	15
単一	18	13	6	0
その他部数	5	5	5	5
市合同	4	4	4	4
単一	1	1	1	1

3 地域クラブ活動実施クラブ数の推移

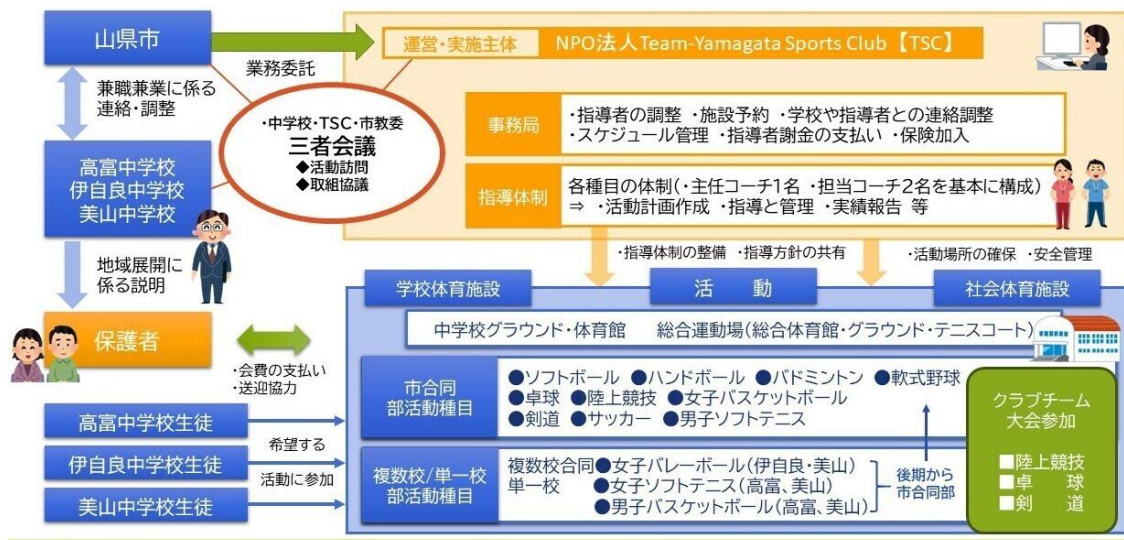
年度	5	6	7
実施数	8	12	前 12→後 13

山県市立中学校への調査結果を元に作成

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（生涯学習課）主管課

- ・コーディネーター（総合型クラブと学校、市教委との連絡調整）
- ・部活動の地域展開事業の方針と事業展開
- ・地域指導者研修会（県及び市）

◎教育委員会（学校教育課）

- ・山口市合同学校部活動の推進に係る方針、年度計画作成
- ・平日部活動の送迎バス運行
- ・地域展開に関する諸課題・事業の共有と協議

年間の事業スケジュール

- 3月 令和7年度TSCコーチ委嘱状交付・教育長講話
- 3月 第1回スキルアップ研修会（跳躍力を高める）
- 4月 TSC中学生スクール紹介パンフレット配布
- 4月 地域指導者人材バンク設置・募集（市ホームページ）
- 5月 三者による地域クラブ活動訪問・交流
- 6月 市内小学生へ地域クラブ活動ニーズ調査実施
- 6月 ジュニアバレーボール教室（講師：県岐阜商高・長良高）
- 6月 第2回スキルアップ研修会（体育協会・スポ少合同研修）
 - ・コンプライアンス・救急法
- 7月 高校生との交流事業（剣道）
- 7月 第1回三者会議（令和8年度からの地域展開方針）
- 8月 高校生との交流事業（バレーボール・バドミントン）
- 8月 女子バレーボール保護者会への地域展開説明
- 8月 TSCコーチへのアンケート調査実施（8年度提供内容）
- 9月 第2回三者会議（令和8年度の地域展開計画）
- 9月 中学生への意識調査実施（満足度等）
- 10月 休日の移動手段に関するニーズ調査実施
- 11月 第3回三者会議（調査結果・中体連大会・取組方針）
- 12月 第3回スキルアップ研修会
 - ・中学生体力測定会・トレーニング指導研修会
- 2月 市認定地域クラブ活動の認定要綱告示（市ホームページ）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		13クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	13クラブ（13部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	50人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
NPO法人 チームヤマ ガタスポー ツクラブ (TSC)	総合型 地域SC	【11種目】 ①剣道 ②卓球 ③陸上競技 ④女子ソフトボール ⑤ハンドボール ⑥バドミントン ⑦軟式野球 ⑧男子バスケット ⑨女子バスケット ⑩男子ソフトテニス ⑪女子ソフトテニス ⑫サッカー ⑬女子バレーボール	・平日 – ・休日 月4回 ／週1回	午前または午後 9時～12時 13時～16時	1年生89人 2年生92人 3年生82人	令和7年4月 ～令和8年3月 ⑬女子バレー 令和7年4月～7月 ⑧男子バスケ 令和7年9月 ～令和8年3月	50人	5人 (内、兼務3人)	年会費 市内 7,800円 市外 8,800円	①～③ ・TSCチーム で参加 ④～⑬ ・部活動で 参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ（TSC）では「スポーツ広場」（多世代交流事業）のうち、6種目に中学生スクール会員43人が参加。
- 中学生の体力測定会を実施。 ●高校生との交流事業を3種目で実施。

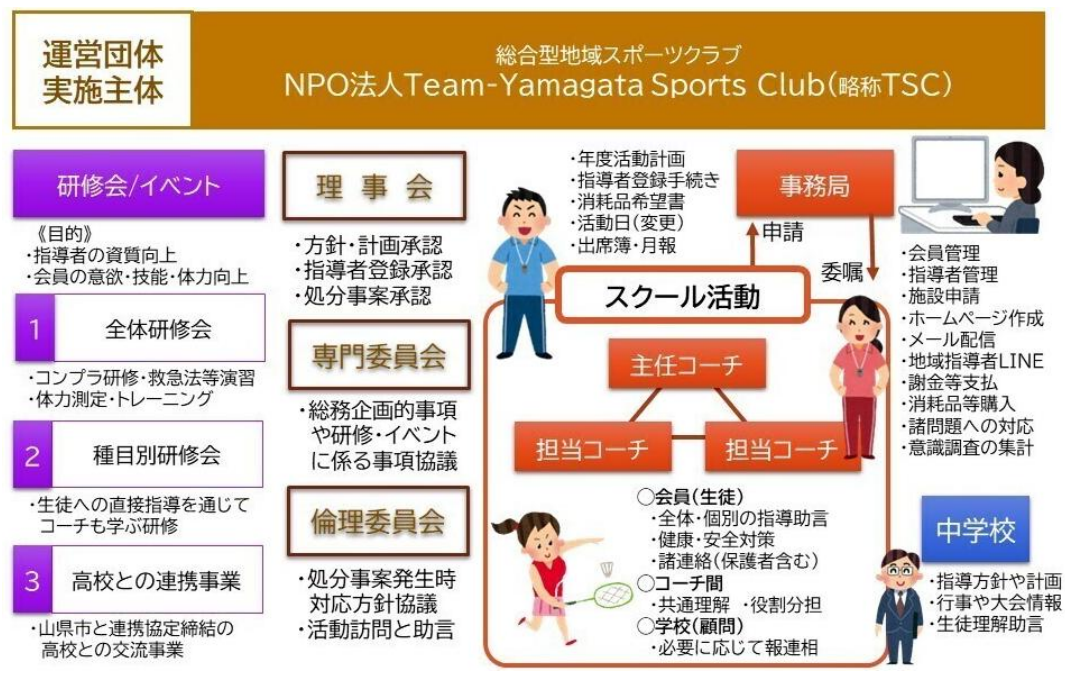
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール、ハンドボール、バドミントン 軟式野球、卓球、陸上競技、剣道 バスケットボール、サッカー、ソフトテニス、バレーボール
運営団体名	NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ
期間と日数	期間：4月～3月 日数：月4回程度
指導者の主な属性	クラブ登録コーチ
活動場所	総合運動場、中学校グラウンド・体育館
主な移動手段	各自移動（保護者送迎）
1人あたりの参加会費等（年額）	入会金（初年度）1,000円 年会費6,000円 （3年生は半期3,000円選択可能）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者 理事長兼事務局長

役割：事業の総括、全種目共通取組事項の提示

●主任指導者 各種目1名

役割：活動計画・指導方針立案、顧問との連携、管理と指導を行う

●担当指導者 各種目2名

役割：技術指導、安全管理指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 中学校長会、運営団体、市教委担当課による三者会議を年3回開催し、取組方針、計画、諸課題への対応方針等について協議する場を設けた。
- ・ 関係三者で各地域クラブ活動を訪問し、実態の把握及び指導助言を行った。
- ・ 市コーディネーターが運営団体と中学校との連絡調整を行った。
- ・ 運営団体事務局と各地域クラブ指導者の連携強化を図るため、個別ヒアリングを実施し、活動方針や年間スケジュール等の調整について協議した。
- ・ 休日の地域クラブ活動におけるバス送迎の需要調査を実施した。

取組の成果

- ・ 三者会議を年3回開催し、取組方針や計画、諸課題への対応方針等について具体的に協議することができた。また、中学校・運営団体・行政の役割分担を細分化したことで、責任の所在が明確になった。さらに、三者連名により、来年度の地域展開の取組方針を生徒・保護者全員へ周知することができた。
- ・ 各地域クラブ活動の訪問では、生徒や地域指導者に対して激励や感謝を伝えるとともに、参加者の感想や体験談を指導者へ直接届けることができた。
- ・ 休日の移動手段に関する保護者アンケートを実施した。特に、中山間地域に位置する2校では送迎の負担感が約61%と高く、拠点校の29%と比較して大きいことが明らかとなった。バス利用の希望は54%、希望しないが15%、分からないが30%であり、休日の移動手段を検討するうえで重要な資料となった。

今後の取組における課題

- ・ 地域展開事業に必要となる施設改修の予算を確保する。
- ・ 休日のバス運行に係る予算を確保する。

課題への対応方針

- ・ 三者会議において、指導運営方針の共通理解を図る。
- ・ 学校開放施設の使用や校舎使用に係るカギ管理者、セコム設定変更、出入り制限等の対応について三者会議で協議し、必要に応じて行政が対応する。
- ・ 来年度の休日バス運行に係る予算を計上し、運行ルートや時間等の詳細を検討のうえ、下半期から運行できるよう計画と体制を整える。
- ・ 保護者会との協力体制については、完全地域展開種目（平日・休日・大会とも地域クラブ活動として実施する種目）をモデルとして検証する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・三者会議の提案及び会議開催に係る事務（年3回）を担当した。
- ・運営団体理事長及び事務局との事業に関する打合せ、報告、連絡を週1回以上行った。
- ・指導者研修会（スキルアップ研修会）の企画立案に関し、指導助言を行った。
- ・高校生との交流事業について、企画立案及び高校との連絡調整を行った。
- ・保護者会役員からの要請に基づき、新規規約の作成に対する助言を行った。
- ・要請のあった種目部保護者会に対し、合同部及び地域クラブ活動の説明を行った。
- ・種目関係者から寄せられた質問や相談に対し、必要な資料を提供するとともに指導助言を行った。
- ・取組方針や推進計画の立案を行い、市教委担当者との報告・連絡・相談を実施した。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・地域クラブ活動担当種目の主任コーチと事務局との連絡は、アプリケーションを活用し随時行っている。
- ・生徒の保護者への活動日時や場所に関する連絡については、運営団体事務局から通常時及び変更時を含めてメール配信を行っている。
- ・各種目の参加者及び地域指導者の出欠名簿、連絡文書、クラブ室のカギは、山県市総合体育館事務室で保管している。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・令和5年度に倫理規程を策定し、有識者（元教育長、元小中学校長）を含む倫理委員会を設置している。
- ・毎年5～6月に「コンプライアンスに関する研修会」を開催しており、特に暴力・暴言の根絶に向けた内容については毎年継続して実施している。
- ・地域クラブ活動事業（実証事業）について、市教委生涯学習課長及び担当係長による監査を年5回実施し、適正な事業運営及び予算執行に努めている。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・活動中の生徒同士のトラブルや事故等への対応を含めた管理責任の主体について
 - ① 管理責任は、TSC理事長およびTSC種目主任コーチ及び担当コーチとする。
 - ② 生徒同士のトラブル対応は、TSC主任コーチ及び担当コーチが行うが、状況や内容に応じて中学校に相談し、適切に対応する。
- ・事故等が発生した場合の保護者や関係機関との適切な連絡調整について

地域指導者は、次の手順で対応する。

- ① 傷病者対応（症状確認、安全確保、応急処置、救急搬送）
- ② 保護者への連絡
- ③ 在籍中学校及び市教委への連絡

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

三者会議の開催 ～関係者との具体的な協議の場～

1 三者会議設置の目的

三者会議は、3年間の実証事業を踏まえて、関係者の意見を元に成果と課題を明らかにし、令和8年度からの方針と計画につなぐことを目的として、市教育委員会、中学校長会、運営団体NPO法人Team-yamagata Sports Club（以下、「TSC」という。）の三者により方針や施策を協議する場とする。

2 構成メンバー

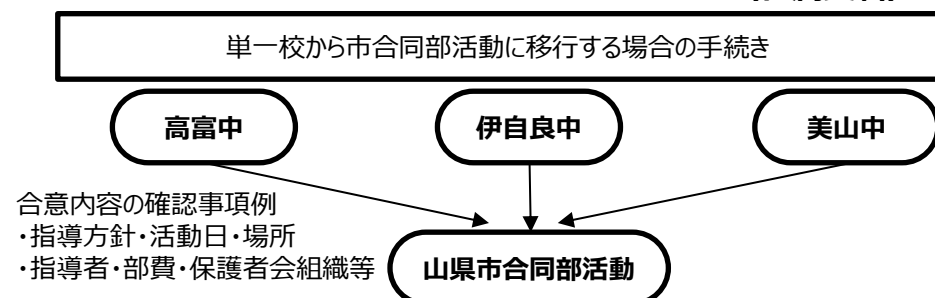
- (1) 中学校長会 高富中学校長、伊自良中学校長、美山中学校長
- (2) TSC 理事長兼事務局長、地域部活動担当事務局
- (3) 市教委 学校教育課課長補佐、生涯学習課スポーツ推進係長
生涯学習課芸術文化企画官、同課地域スポーツ推進監

3 開催日と議事内容

- (1) 第1回 7月16日（水）15:00～16:30 総合体育館役員室
主な議事「8年度からの中学校部活動の地域展開について」
★「三者連名による生徒・保護者への方針についての文書を配信」
- (2) 第2回 9月17日（水）15:00～16:30 総合体育館役員室
主な議事「各部の地域展開状況（後半）および来年度の予定について」
★「各部の本年度後半の状況を確認し、三者からの報告や提案を依頼」
- (3) 第3回 11月28日（金）15:00～16:30 総合体育館役員室
主な議事「バス利用調査・生徒意識調査・中体連・市取組方針について」
★「調査結果の報告及び休日の校舎使用・来年度方針を具体化」

4 単一校から市合同部への移行及び地域クラブ活動参加に係る見解の違いや相談が過去に多くあり、手続きの共通理解を図るため、下図のように示し、関係部活動関係者への説明が正しく円滑になされるようにしている。

〈付属資料〉



- 1 生徒・保護者・顧問相互の合意形成が得られる（オールOK）＊異論あれば見送り
- 2 該当校関係者が一堂に会し、合意内容を確認する。
- 3 中学校長会が了承し、市教委へ報告する。

- 地域クラブ活動（TSC）に参加することについての手続き
- 1 「相談」 中学校とTSCで、受け入れ内容の相談を行う。＊指導者・活動日/場所等
 - 2 「了承」 保護者会で、TSC活動について説明し了承を得る。＊TSC入会は希望加入
 - 3 「大会」 顧問と保護者会で大会の参加方法を決める。
＊学校チームで参加するか、TSCで参加するかを相談して決める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- スキルアップ研修会を年3回開催し、指導者の資質向上に努める。
- 生徒への意識調査を実施する。
- 山県市地域指導者を募集し、人材バンクを設置する。

取組の成果

- 「スキルアップ研修会」について
 - ・受講者は、第1回が24人、第2回が52人であった。
 - ・第1回は委嘱状交付式と同日開催し、岐阜県スポーツ科学センターから講師を招き、「跳ぶ」をテーマに講義と実技を交えて研修を深めることができた。
 - ・第2回は体育協会・スポーツ少年団とTSCの3団体合同で、コンプライアンス研修と救急法研修会を行った。
- 「生徒への意識調査」について（5段階評価）

指導改善につなげるため、毎年9、10月の時期に生徒への調査を実施した。

昨年度よりも高い評価を得られており、成果と捉えている。

 - ①加入目的→体力技術向上81%、友だちと楽しく74%、成績・協力55%
 - ②活動満足度（5段階）→平均4.2（昨年4.1）
 - ③体力技術向上満足度（5段階）→平均4.3（昨年3.9）
 - ④仲間関係満足度（5段階）→平均4.5（昨年4.1）
 - ⑤-1 学校部活動活動日→適当56%、少ない41%、多い3%
 - ⑤-2 学校部活動活動時間→適当66%、少ない30%、多い4%

- ⑤-3 地域クラブ活動活動日→適当58%、少ない24%、多い18%
- ⑤-4 地域クラブ活動活動時間→適当72%、少ない17%、多い11%
- ⑥地域指導者の満足度（5段階）→平均4.3（昨年3.9）
- ⑦指導を受けて《昨年度より評価が上がった内容》（ ）内は昨年
 - ・指導がわかりやすい79%（77%）
 - ・体力技能向上80%（75%）
 - ・クラブ活動が好きになった54%（36%）
 - ・顧問との連携8%（14%）
 - ・指導が厳しい9%（14%）
 - ・指導時間が長い6%（9%）
- 「山県市地域指導者の募集及び人材バンク設置」について
 - ・市内外の人材発掘を図るため、新たに人材バンクを設置し、市HPや各中学校へチラシ配布を行い周知を図った。その結果、3人の応募があり人材バンクとして登録して頂いている。

今後の取組における課題

- ・研修会の参加者数が少ない。
- ・公認資格の取得者が少ない。

課題への対応方針

- ・研修会の計画を年度当初に設定し、早期に周知を図る。
- ・公認資格の取得に係る受講料を運営団体が負担していることを指導者へ改めて周知し、取得者の増加を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

「中学生『スポーツ、文化芸術』部活動指導者募集」及び「山県市地域指導者人材バンク設置」を行い、地域指導者の確保に向けた取組を行った。

指導者の資質向上を図るため、年3回の研修会を実施した。

指導者研修の内容

「第1回スキルアップ研修会（跳躍力を高める）」

研修名	跳ぶ能力を高めるトレーニング方法
講師	岐阜県スポーツ科学センター 専門員2名
研修内容	本研修は、様々な種目に共通する「跳ぶ」をテーマにした研修を中学生と地域指導者が共に学ぶ形で実施した。 ・期日／3月22日（土）19:30～21:00 市総合体育館 ・垂直とび測定（トレーニング前）モデルは中学生 ・跳ぶ能力に関するトレーニングの紹介（講義） ・垂直とび測定（トレーニング後） ・測定とトレーニングの重要性（講義） 地域指導者数24名、モデル中学生16名

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

身体の仕組みや動き方を理解することで、思考力向上に繋がったと考える。

参加者②

軟式野球での指導方法は関係がないと思って参加したが、そうではなく全ての種目や日々の生活に活用できるものと感じました。

●研修の様子



「垂直とびの測定の様子」



「よい姿勢をチェックしている様子」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

毎年コンプライアンス研修を共同で実施している。特に、ジュニア指導を担当する指導者が多いことから、毎年同じテーマで研修を深めている。また、救急法と熱中症予防の研修も毎年定番の研修として実施しており、夏季の活動を前に重要な研修として受講者も熱心に参加していた。

指導者研修の内容

「第2回スキルアップ研修会」

研修名	救急法研修会&コンプライアンス研修会
講師	JSPO公認ジュニアスポーツ指導員・スタートコーチインストラクター・日本赤十字社認定救急法指導員
研修内容	・山県市体育協会、スポーツ少年団、TSC共同開催 ・期日／6月7日（土）13:00～16:30 総合体育館 ・研修 救急法（心肺蘇生法）及び熱中症予防（演習） 受講者数52名 ・研修 ジュニア選手への適切な指導運営（講義）～暴力・暴言・ハラスメントの根絶を目指して～ 受講者数22名

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

クラブ活動時における、生徒への有事の事態に活用できるようイメージしながら参加することができた。

参加者②

例年参加しているが、改めて参加することで記憶よりも身体で覚えることができたと思う。

●研修の様子



「心肺蘇生法演習の様子」



「救急法・熱中症予防の講義の様子」

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

「第3回スキルアップ研修会」

研修名	体力測定会&トレーニング指導
講師	JAAF日本陸上競技協会公認ジュニアコーチ
研修内容	第1日:12月11日（木）19:00～21:00 総合体育館 ・体力測定 6種目 ・指導者（測定員）18名・参加中学生30名 第2日:12月18日（木）19:00～21:00 総合体育館 ・敏捷性、パワーを高めるトレーニング指導

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

個々の体力を見知することで、今後のトレーニング方法の見直しを図り効果的な指導方法に繋がりたいと思った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

○岐阜県地域クラブ指導者育成研修会の受講促進

令和4年度から岐阜県と岐阜県スポーツ協会主催で始まった岐阜県地域クラブ指導者育成研修会への積極的な受講の周知を各指導者に要請をしている。

本年度までに50名中、33名が受講している。

○JSPO・中央競技団体公認資格の取得者への受講料支援

TSCは、以前より公認資格の取得者を増やし、会員に良質な指導ができるように、受講料を全額負担している。現在も、毎年各種目指導者に対して受講を積極的に呼びかけている。

「指導者の資格取得状況」

* 表中「県地域指導者育成研修」は、岐阜県と岐阜県スポーツ協会が発行する認定証。

種目	指導者 人数	県地域指導者 育成研修	JSPO公認 競技団体公認	教員 免許	他
1 剣道	4	3	2	2	七段2人・五段2人
2 サッカー	4	2	2	2	審判資格4人
3 ソフトテニス	7	4	4	2	
4 ソフトボール	3	3	3	0	
5 卓球	3	2	3	1	
6 軟式野球	7	4	0	3	審判資格1人
7 バスケットボール	8	5	4	4	審判資格3人
8 バドミントン	4	3	2	2	審判資格1人
9 バレーボール	3	2	2	0	
10 ハンドボール	4	4	1	0	審判資格1人
11 陸上競技	3	1	1	2	
合計	50	33	24	18	

平日・休日の一貫指導に関する取組

「学校部活動」を「地域クラブ活動」として展開することを山県市の方針とし、全ての活動について「地域クラブ活動（TSC）」への地域展開を目指す。体制や環境・人材確保の観点から学校部活動を継承しつつ体制等が整った部から、平日も休日も更には大会も「地域クラブ活動」へ展開する予定でしたが、当該年度においては、休日及び大会のみとなった。次年度以降も、市教育委員会・校長会・スポーツクラブが連携強化し、引き続き平日も含めた、クラブ活動を推進する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

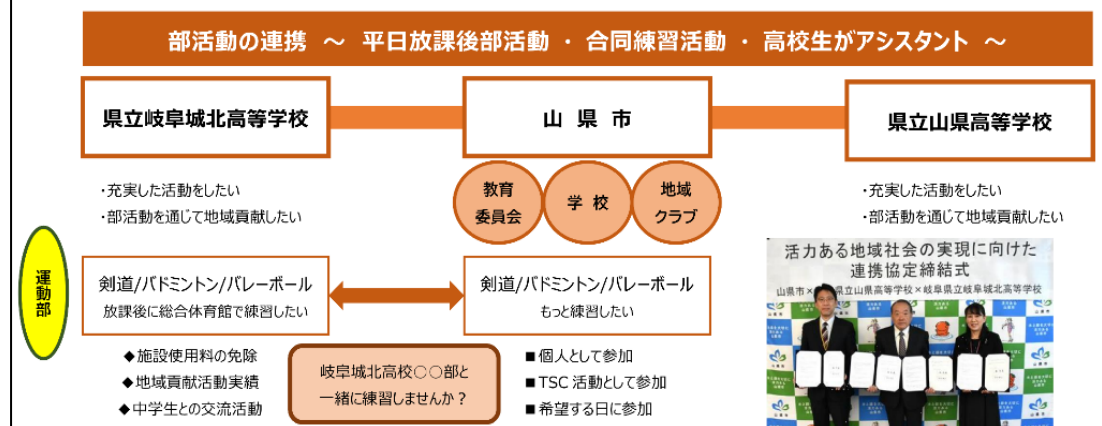
- ・ 総合型地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員等、市のスポーツを推進する団体との連携を強化する。
- ・ 山県市スポーツ座談会（仮称）を計画し、先進的な取組を行っている県外の総合型地域スポーツクラブへの視察を実施する。
- ・ 活力ある地域社会の実現に向けた連携協定を、山県市と県立岐阜城北高等学校・県立山県高等学校が締結したことを受け、高校生と中学生の交流事業を展開する。

取組の成果

- ・ 総合型地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ少年団が共同で研修会を実施することができた。役員や指導者の中には複数の団体の役職を兼ねている者もあり、効率的な実施につながった。なお、詳細は「指導者の質の保障・量の確保」に記載している。
- ・ 山県市と近隣高校との連携協定を受け、県立岐阜城北高等学校の剣道部、バドミントン部、女子バレーボール部による中学生への助言や交流を行うことができた。高校側は総合体育館を利用できるメリットがあり、双方にとって有意義な事業となった。また、高校生の中には市内中学校の卒業生もあり、良い雰囲気の中で交流を実施することができた。

活力ある地域社会の実現に向けた連携協定 ～教育及び人材育成に関すること～

「中学校部活動の地域展開事業」への参加協力



今後の取組における課題

- ・ 山県市スポーツ座談会（仮称）を計画していたが、他の事業が追加されたため、開催することができなかった。

課題への対応方針

- ・ 平日放課後や長期休暇中における近隣高校等とのさらなる交流を図るため、連携種目の拡大に向けて検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

- 地域交通事業者との連携に関する取組については、本年度は実施していないが、生徒の移動手段の確保や保護者の送迎負担軽減の観点から、庁舎内の担当課担当係と意見を交換し効果的な活動に繋げていけるよう、更に研究を重ねる。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 本市における学校部活動の地域展開事業の現状について、スポーツ推進委員の定例会に出席し、現状と課題について説明。課題においては、指導者確保の観点から、市が設置している人材バンクについて詳細に説明をし、人材登録への協力依頼をした。引き続き、情報共有し連携に向けた取組が実現できるよう協議を重ねる。

市内スポーツ団体との連携に関する取組

- 運営・実施主体である総合型地域スポーツクラブを基点に、体育協会及びスポーツ少年団が連携し研修会を実施することができた。研修会の参加者には、市スポーツ推進委員もあり、スポーツに携わる関係団体が、本市の部活動地域展開に協力をしていただいている。

企業等との連携に関する取組

- 岐阜県内のプロスポーツチームとの連携については、本年度は実現することが困難であったが、実務担当レベルにおいては打合せを重ね、次年度以降、生徒を対象にクリニックや教室等を開催できるよう、引き続き協議を重ねる。（プロバスケットボールチーム・プロバレーボール女子チーム・プロサッカーチームとのクリニックや教室を模索中）

令和7年度 山県市体育協会、山県市スポーツ少年団、NPO法人 Team-yamagata Sports Club 共同開催
母集団研修会、救急法研修会、コンプライアンス研修会
 ～公的団体としての信頼性を高め、確かな活動を実現するために～

1 主催 山県市体育協会、山県市スポーツ少年団、NPO法人 Team-yamagata Sports Club
 2 日時 令和7年6月7日(土) 13:00～16:30
 ＊受付は、各研修会の30分前から
 3 会場 山県市総合体育館 2階 多目的ホール
 4 内容

研修① 13:00～13:50「スポーツ少年団母集団研修会」対象/スポーツ少年団 保護者で未受講の方	
講義「スポーツ少年団母集団の在り方について」	
研修② 14:00～15:30「救急法研修会」対象/体協、スポ少、TSC関係者(育成者、指導者)	
講義・演習「救急法(心肺蘇生法)及び熱中症予防について」	
研修③ 15:40～16:30「コンプライアンス研修会」対象/体協、スポ少、TSC関係者(育成者、指導者)	
講義「ジュニア選手への適切な指導運営について ～暴力・暴言・ハラスメントの根絶をめざして～」	

5 講師 公財日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員・スタートコーチインストラクター
 日本赤十字社認定救急法指導員・幼児安全法指導員・健康生活指導員 鷲見 明俊 氏

6 受講証 受講者には、「受講証」を発行します。
 救急法受講者には、赤十字社より「受講証」が交付されます。

7 申込方法 「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記申込窓口へ、
 直接・郵送・FAX等によりお申し込みください。

8 申込ぐ切 準備の関係上、令和7年6月1日(日)までにお申し込みください。

9 申込窓口 山県市総合体育館(事務局)へ申込
 【〒501-2113 山県市高本 1675 山県市総合体育館内】
 【TEL:0581-22-6622 FAX:0581-23-0022】

令和7年度 山県市体育協会、山県市スポーツ少年団、NPO法人 Team-yamagata Sports Club 共同開催
スポーツ少年団母集団研修会、救急法研修会、コンプライアンス研修会 参加申込書

氏名	区 分	()保護者 ()指導者 ()役員
所属団体	体育協会・スポーツ少年団・TSC	連盟・単位団・種目名
電話番号		
参加研修	()研修① ＊スポ少対象者は必ず記入する人	()研修② ＊3団体対象 ()研修③ ＊3団体対象

※参加研修欄は、参加を希望する研修に「○」印をつけてください。
 FAX 送付の方は、申込書を切り取らずにご提出ください。また、FAX 番号を確認の上、お申し込みください。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・市内3中学校の部活動を地域展開する取組を促進する。
- ・地域クラブとして大会に参加する取組を促進する。

取組の成果

- ・市内3中学校の部活動を地域展開する取組を促進する。
- ・本年度9月から、すべての部活動が市合同部活動へと展開した。
- ・女子バレーボール部では、顧問及び保護者会から地域クラブ活動の内容等について説明を求められ、本成果報告書8ページに記載した資料をもとに説明を行い、その後、休日は保護者クラブで活動することとなった。
- ・男子バスケットボールクラブは、顧問と保護者会で協議し、練習場所を2校で交互に使用できるよう調整し、円滑にクラブ活動が展開された。
- ・女子ソフトテニスクラブは、指導者・生徒・保護者の間で練習場所及び日程を調整し、円滑にクラブ活動が展開された。
- ・地域クラブでの大会参加の取組を促進する。
- ・地域クラブ（TSC）として大会に参加した種目は、昨年度の陸上競技、卓球に加え、剣道の3種目となった。
- ・中体連・専門部への働きかけ（山県市の取組と出場条件について）
- ・陸上競技では、当初リレー種目が単一校での構成でなければ参加が認められなかったため、山県市の合同部活動として参加できるよう教育長名の文書を作成し、中体連への出場が可能となった。

今後の取組における課題

- ・市外の中学生在が本市のクラブ活動に加入できる仕組みづくりが課題である。
- ・移動時間や移動方法に関する保護者負担の軽減が課題である。
- ・中体連や大会主催者に対し、山県市の取組を十分に周知することが課題である。

課題への対応方針

- ・地域クラブ（TSC）の指導者確保を図るため、保護者との協力体制について、保護者会と地域指導者との連携強化を図る。
- ・休日の地域クラブ活動においては、活動場所までの移動時間や移動手段が保護者の大きな負担となっていることから、その負担軽減を図ることが重要である。そのため、送迎方法の在り方を検討し、クラブ活動への参加が円滑に行える環境を整備する必要がある。具体的には、送迎バスの導入に向けた予算化を進めるとともに、運行ルートや利用対象、運行時間などについても実情に応じて検討を行い、効率的かつ安全な運用体制の構築を目指す。こうした取組により、保護者の負担軽減だけでなく、生徒が安心して継続的に活動に参加できる環境づくりにつなげていく。
- ・「市で一つのクラブ」であり、「所属校は山県市立中学校である」ことについて、市教委から関係団体へ文書を送付し、周知を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

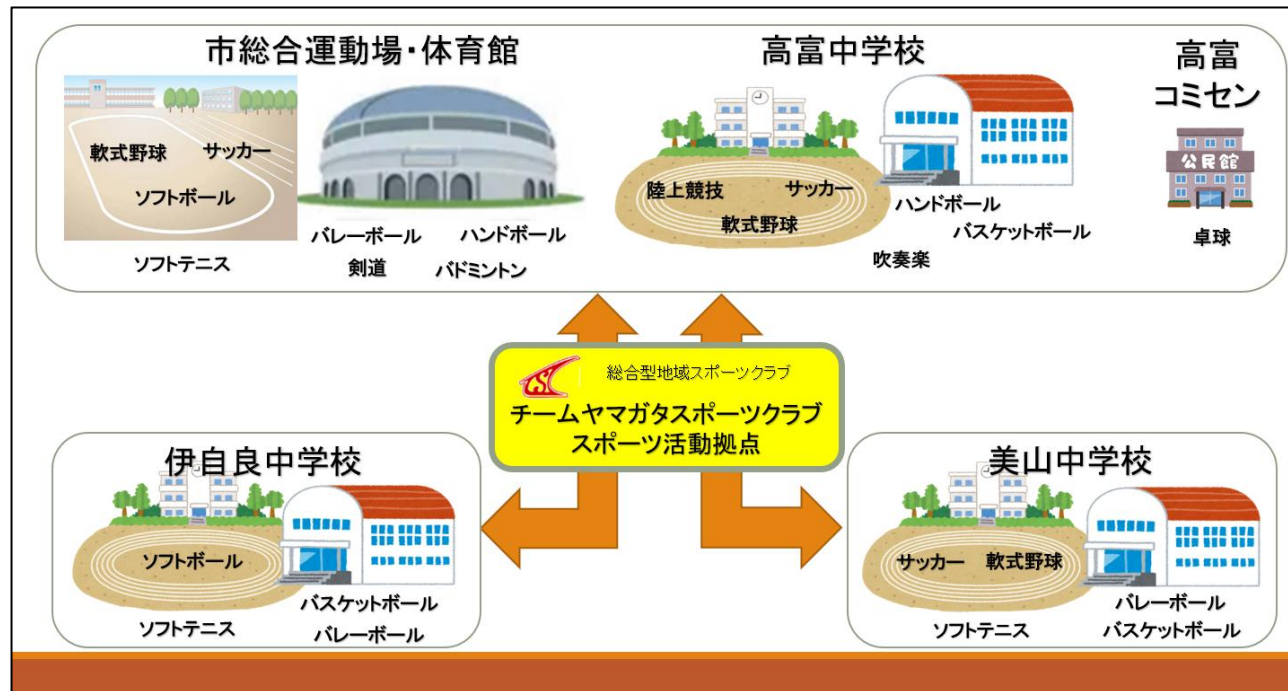
●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

幅広い運動部活動の地域スポーツクラブ活動への移行の取組

市内唯一の総合型地域スポーツクラブ「NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ（略称：TSC）」を基点に、市内3中学校の運動部をクラブ活動として取組んだ。

一部、クラブ参加者数の減少により移行できないクラブがあるものの、受け入れ体制が既に構築されているため、随時、移行できる可能性があると考える。

〈参考資料〉



出典:岐阜県山県市

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 「地域クラブ活動」以外にも、本市では中学生が自由に参加できるプログラムを提供している。その一つが「スポーツ広場」（多世代交流事業）であり、主に平日の夜間に参加できるよう設定している。
- 競技力向上を図るとともに、スポーツ科学を取り入れたトレーニングを実施するため、体力測定会及びトレーニング指導を行う。
- 高校生との交流事業を開催し、中学生の学びと意欲の向上につなげる。

取組の成果

- TSC「スポーツ広場」（多世代交流事業）では、6種目に中学生スクール会員43人が参加している。生徒は「もっとやりたい」「自分のペースでできる」「異なる年代の人と一緒に活動できる」といった理由でエントリーし、参加している。
・バドミントン：3人 ・剣道：8人 ・バスケットボール：7人 ・卓球：9人・ランニングクラブ：5人 ・ソフトテニス：11人
- 中学生を対象に体力測定会とトレーニング指導を実施した。
- 10月中旬から2月まで平日の部活動がない期間に、生徒が自身の体力を把握し、冬期間のトレーニングに生かせるよう企画した。
- 高校生との交流事業を開催した。
- 市連携協定を締結している高校との交流（※「ウ：関係団体・分野との連携強化」に記載）
- 市連携協定以外の高校との交流



「高校生との交流事業」におけるバレーボール・剣道・バドミントン活動の様子

今後の取組における課題

- 生徒の多様なニーズに応じたプログラム提供が課題であり、硬式テニスクラブやダンスクラブ等、多種多様なクラブ活動の取組を計画していく必要がある。

課題への対応方針

- 岐阜県スポーツ科学センターとの連携を図り、効果的なトレーニング法を指導者研修に取り入れる。
- 専門性の高い指導を生徒に提供できる外部講師を調査し、指導内容の充実を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

生徒のニーズや意見等が反映させる取組

- TSクラブ活動の満足度は、昨年と比べ5が多く（44%）、平均4.2という結果であった。3普通、4まあまあ満足が減り、満足と感じる生徒が増えている。（平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は3種目、平均3台は2種目）
- 体力や技術向上の満足度も、評価5が最も多く（47%）、平均4.3という結果であった。（平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は4種目、平均3台は2種目）
- 仲間関係の満足度は、突出して5が多く（60%）、平均4.5という結果であった。3の減が顕著であった。
- 指導の満足度は5が約51%と昨年の約41%より高評価を得た。平均は4.3であった。（平均4以上は10種目で、中でも平均4.5以上は5種目）
- 「指導がわかりやすい、体力・技術が向上している」はそれぞれ約80%とUPし「指導が厳しい・わかりにくい」等の感想は昨年に比べ約9%・約4%と減少した。

※全体的に昨年より生徒の意識、向上心が上がっているように感じられるのと指導者への満足度も上がっているのがうれしい結果となった。（詳細については、実証内容と成果に記載）

【参考資料】

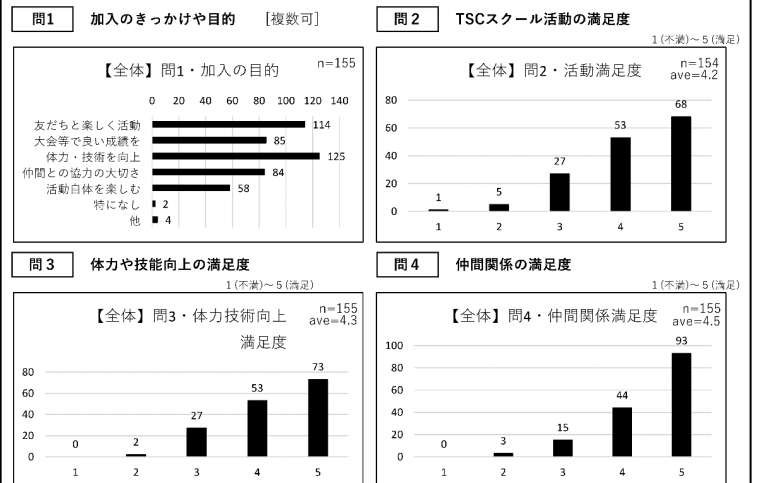
TSC中学生会員への意識調査結果報告【10月】

全 体

NPO法人Team-yamagata Sports Club

TSC中学生会員みなさん、意識調査への回答をありがとうございました。
結果につきましては、TSC役員・理事、中学生スクールコーチで共有し、前回の意識調査の結果と合わせて、今後のTSC活動の充実・改善につなげてまいります。ご協力ありがとうございました。

スクール種目 1,2年会員:238名のうち (市内:176名 市外:62名) 155名が回答	バレーボール:28名(うち市外:13名) ハンドボール:12名 剣道:4名 バスケットボール:28名 バドミントン:26名 卓球:5名(うち市外:2名) ソフトテニス:10名 陸上競技:10名 ソフトボール:11名 軟式野球:15名 サッカー:6名
---	---



- 1 加入のきっかけや目的は複数の項目を選択している生徒が殆どで、特に体力・技術の向上は昨年と比べ10人増えている。
- 2 TSCスクール活動の満足度は、昨年と比べ5が多く（44%）、平均4.2という結果であった。
3 普通、4 まあまあ満足が減り、満足と感じる生徒が増えている。
（平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は3種目、平均3台は2種目）
- 3 体力や技術向上の満足度も、評価5が最も多く（47%）、平均4.3という結果であった。
（平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は4種目、平均3台は2種目）
- 4 仲間関係の満足度は、突出して5が多く（60%）、平均4.5という結果であった。
3の減が顕著であった。
（平均4以上は10種目で、中でも平均4.5以上は5種目、平均3台は1種目）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

運営団体の主たる収入は、県及び市からの委託費である。また、経済的に困窮する家庭の生徒に対して活動費の支援を行っており、その支出割合は全体の2.8%である。支出の中で最も大きな部分を占めているのは指導者謝金である。今後、持続可能な運営団体とするためには、収入減をどのように補い、改善していくかを検討する必要がある。

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

- 経済的に困窮する家庭の生徒の活動費の支援に取組んだ。
- 要保護、準要保護家庭の市内中学生会員については、年会費（入会金）及び保険料を扶助する。
- 本年度対象者：10人（新規会員：5人・継続会員：5人）

「TSC 会員入会案内」

7 年度の入会受付は既に始まっています。
TSC の入会は「希望加入」です。但し、地域部活動や TSC 活動に参加希望の方は入会が必要です。また、エントリー種目は複数可能です。

入会には「入会金・年会費・保険料」が必要です。3 年生は期間を選択できます。
TSC には要保護・準要保護家庭への扶助制度があります。
入会に関する詳細はクラブハウスにお問い合わせください。(TEL:23-0330)

入会金・年会費・保険料																						
区分	金額																					
入会金	1,000円																					
年会費	<table border="1"> <thead> <tr> <th>住所区分</th> <th>1期</th> <th>2期</th> <th>3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山県市内</td> <td>6,000円</td> <td>5,000円</td> <td>3,000円</td> </tr> <tr> <td>山県市外</td> <td>7,000円</td> <td>6,000円</td> <td>4,000円</td> </tr> </tbody> </table>	住所区分	1期	2期	3期	山県市内	6,000円	5,000円	3,000円	山県市外	7,000円	6,000円	4,000円									
住所区分	1期	2期	3期																			
山県市内	6,000円	5,000円	3,000円																			
山県市外	7,000円	6,000円	4,000円																			
保険	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生3年生のみ</td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>住所区分</th> <th>半期</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山県市内</td> <td>4,000円</td> <td>8,000円</td> </tr> <tr> <td>山県市外</td> <td>5,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td>中学生以下</td> <td>800円</td> </tr> <tr> <td>高校生以上</td> <td>1,450円</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,850円</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,200円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	中学生3年生のみ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>住所区分</th> <th>半期</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山県市内</td> <td>4,000円</td> <td>8,000円</td> </tr> <tr> <td>山県市外</td> <td>5,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> </tbody> </table>	住所区分	半期	年間	山県市内	4,000円	8,000円	山県市外	5,000円	10,000円	中学生以下	800円	高校生以上	1,450円	65歳以上	1,850円	65歳以上	1,200円
区分	金額																					
中学生3年生のみ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>住所区分</th> <th>半期</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山県市内</td> <td>4,000円</td> <td>8,000円</td> </tr> <tr> <td>山県市外</td> <td>5,000円</td> <td>10,000円</td> </tr> </tbody> </table>	住所区分	半期	年間	山県市内	4,000円	8,000円	山県市外	5,000円	10,000円												
住所区分	半期	年間																				
山県市内	4,000円	8,000円																				
山県市外	5,000円	10,000円																				
中学生以下	800円																					
高校生以上	1,450円																					
65歳以上	1,850円																					
65歳以上	1,200円																					

扶助制度の対象者と内容

■対象者
次に該当し、山県市内小・中学校に在籍する児童生徒の家庭
(1)生活保護法第6条第2項の規程による要保護者
(2)市町村教育委員会が就学援助費事務取扱要綱等によって認定した準要保護者

■扶助内容
要保護者→年会費全額免除
準要保護者→年会費半額免除
(地域部活動種目)
要保護・準要保護者とも
年会費・入会金・保険料を全額免除

入会にあたっての参考

○中学生スクール・広場のエントリーは複数種目可能です。(昨年度の例：陸上と卓球、剣道とバスケ、陸上と野球など)
○部活動と同じ種目で、部活動と違う種目で、部活動に入らずに TSC に入会し、ニーズに応じた遊び方が可能です。
○TSC チームで参加予定の種目の費用▶登録費や大会参加費等、大会に必要な費用は、TSC 年会費とは別に必要となります。

●収入

項目	費用	割合
委託費	3,036,133	100%
合計	3,036,133	—

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	2,342,718	77.2%
諸謝金 (指導者)	1,884,000	80.5%
会場使用料	291,918	12.5%
雑役務 (振込手数料)	12,100	0.5%
雑役務 (困窮世帯支援)	67,300	2.8%
指導者保険料	87,400	3.7%
事務局運営費	693,415	22.8%
人件費	693,415	—
合計	3,036,133	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 市内の全学校施設及び社会体育施設に電子キーを導入し、利用者の利便性向上を図る。
- 地域クラブ活動が優先的に施設を利用できるようにする。

取組の成果

- 市内学校施設では、これまで体育館のカギ管理を近隣住民に依頼していたため、利用者はカギの借用・返却に時間を要していた。体育館ドア付近にキーボックスを設置し、暗証番号入力により利用者自身で開閉できるようになったことで、利便性が向上した。
- 地域クラブ活動の運営団体である総合型地域スポーツクラブTSCは、市民向けに講座・教室を広く提供しており、従来から優先利用団体であった。そのため、中学生の活動についても大きな変更はなく、特に総合体育館の土曜日の利用については優先的に取扱っている。

今後の取組における課題

- 中学校校舎の使用に関して、カギの管理方法、使用範囲、生徒の出入口等についての取扱を明確化する必要がある。

課題への対応方針

- 休日に中学校校舎を使用する際の動線確保について、三者会議（中学校長・運営団体・市教委）で規程を検討し、関係クラブの地域指導者（顧問）と調整を図る。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 予約システムと連動したスマートロックの導入、キーボックス等による鍵の受け渡しについては、前年度に導入済みである。

用具使用・管理等における取組

- 学校体育施設の夜間照明におけるLED化については、未整備であるため、「LED化改修計画」を定め、計画的な施設整備と管理に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

小学生へのニーズ調査

○小学生（4,5,6年生）の現在の活動状況を把握するとともに、中学校でやってみたい種目を調査し、今後の種目設置等の施策に生かすようにアンケート調査を行った。今後の設置種目や指導者確保に生かしていきたい。

1学校以外で、習い事としてスポーツ活動や文化芸術活動をしているか

・スポーツ46%、文化芸術14%、両方24% →全体の83%は活動している

2現在行っているスポーツ種目（上位種目）

・水泳、陸上競技、バスケットボール、軟式野球、バレーボール、サッカー

3現在行っている文化芸術活動（上位種目）

・ピアノ・エレクトーン、書道習字、英会話

4その活動をしている理由・きっかけ

①好き・楽しい ②上手になりたい ③友だちと活動 ④勝ちたい・家族が活動

5中学校では、どうするか？

・「同じ活動を継続」36%、「同じ活動と違う活動の両方」28%、「違う活動を始める」6%、「わからない・やらない」21%

6やってみたい種目（上段：スポーツ、下段：文化芸術の上位種目）

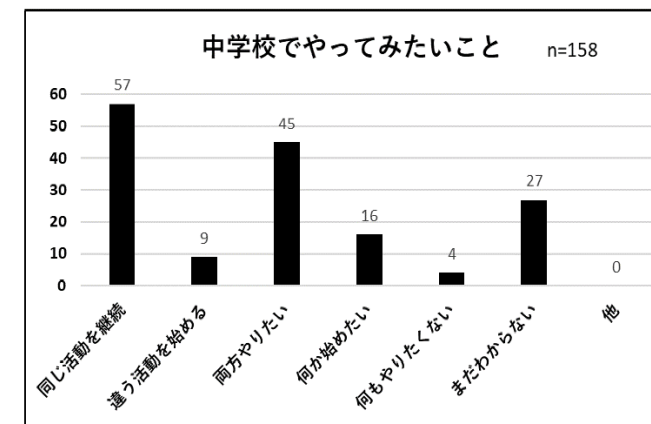
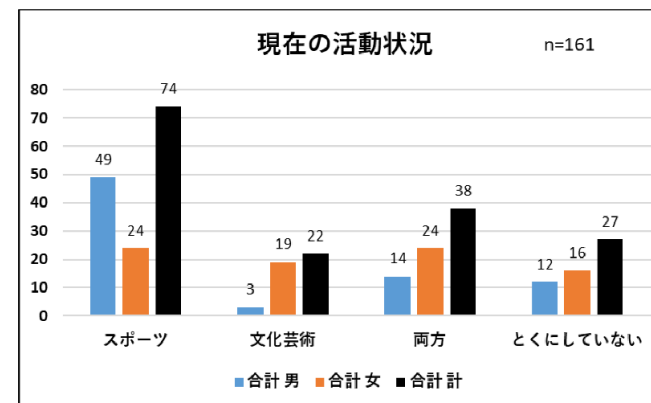
○水泳、バドミントン、陸上競技、バスケットボール、軟式野球、ヒップホップ

○ピアノ・エレクトーン、書道習字、英会話、家庭・クッキング、美術工芸

7地域移行を知っているか

・「よく知っている」と「少し知っている」48%

・「あまり知らない」と「まったく知らない」52%



出典：岐阜県山県市

今後の取組における課題

新規種目（本市においては水泳）について、活動できる環境と指導者がいないため、地域クラブ活動ではなく、民間運営しているクラブに頼らざるを得ない。

課題への対応方針

民間運営しているクラブと、地域展開事業における包括支援協定を締結し、生徒の多様な活動を支援できるよう検討する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

1 山県市合同部活動から地域クラブ活動への推進と体制整備

少子化が進む現状を踏まえた市独自の取組である「山県市合同部活動」（令和2年度開始）は、本年度後期の段階で全ての部が合同部活動となり、さらに新たなステージとして「山県市地域クラブ活動」へと展開した。

2 休日の地域クラブ活動への展開を推進

運動系13クラブについては、TSCが地域クラブ活動の運営団体として受け入れを行っており、本年度後期からはそのうちソフトテニス及び男子バスケットボールの2クラブが、生徒や保護者の意向を踏まえて地域展開を進めている。

3 地域クラブでの大会参加

昨年度は卓球及び陸上競技の2種目が地域クラブとして大会参加したが、本年度は剣道も地域クラブとして参加することができた。種目により大会参加ルールが異なるため、地域クラブでの大会参加を促進するためには、中体連や競技団体のルールを一定程度統一していくことが求められる。

4 内容の充実

近隣高校との交流事業を開始した。中学生にとって高校生は年齢が近いものの、日常的に関わる機会が少ない存在であり、交流を通じて互いに刺激を受けながら、緊張感のある有益な事業となったと考えられる。

5 指導改善と内容充実を図る取組

年間3回、指導者研修会を実施した。効果的な指導につなげることを目的として開催し、地域指導者のみならず中学生も参加できる内容としたことで、指導に関する共通理解の深化につながったと考えられる。

●成果の評価

- 山県市地域クラブ活動への展開手順については、中学校・顧問・保護者間で丁寧に説明を行い、円滑に展開することができた。
- 中学校長会、運営団体、市教育委員会による三者会議を年3回開催したことで、取組に関する共通理解が深まり、活動状況の共有や課題の協議を行うことができた。
- TSCは運営団体として全種目を一括管理し、活動計画、指導報告、参加者への連絡等を適切に処理した。また、指導者研修会についても、講義や実技を組み合わせる等工夫を凝らし、充実した内容とすることができた。
- 近隣高校との連携による交流事業を実施し、生徒にとって有意義で充実した機会となった。
- 中学生を対象としたTSC活動の意識調査や、休日送迎バスに関するニーズ調査を実施し、今後の改善に生かすことができた。
- 毎年実施しているスクール訪問では、市教育委員会学校教育課及び生涯学習課の職員、3中学校代表、TSC役員が各活動を見学し、交流を深めることができた。

●今後に向けて

- 休日に送迎バスを運行し、保護者負担の軽減を図る。
- 平日も地域クラブ活動に移行できる種目、また平日・休日・大会のすべてを地域クラブ活動として実施できる種目について、モデル事業を展開する。
- 運営団体TSCは、物価高騰や種目による経費差を踏まえた会費設定を行う予定である。

2.実証内容と成果②

中学生への意識調査結果

TSC中学生会員への意識調査結果報告【10月】

全 体

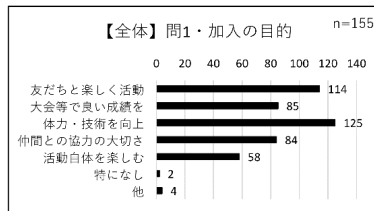
NPO法人Team-yamagata Sports Club

TSC中学生会員のみなさん、意識調査への回答をありがとうございました。

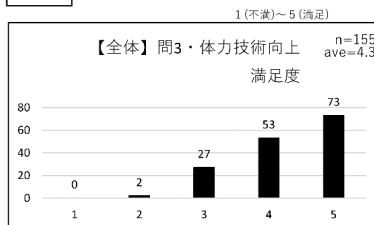
結果につきましては、TSC役員・理事、中学生スクールコーチで共有し、前回の意識調査の結果と合わせて、今後のTSC活動の充実・改善につなげてまいります。ご協力ありがとうございました。

スクール種目 1,2年会員:238名のうち (市内:176名 市外:62名) 155名が回答	バレーボール:28名(うち市外:13名) ハンドボール:12名 剣道:4名 バスケットボール:28名 バドミントン:26名 卓球:5名(うち市外:2名) ソフトテニス:10名 陸上競技:10名 ソフトボール:11名 軟式野球:15名 サッカー:6名
--	---

問1 加入のきっかけや目的 [複数可]



問3 体力や技能向上の満足度



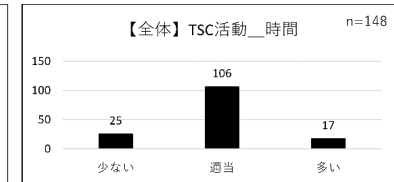
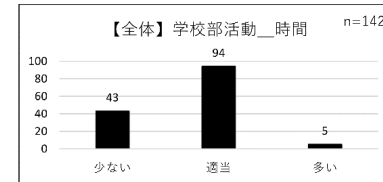
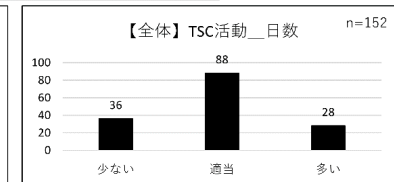
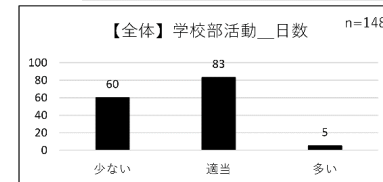
- 加入のきっかけや目的は複数の項目を選択している生徒が殆どで、特に体力・技術の向上は昨年と比べ10人増えている。
- TSCスクール活動の満足度は、昨年と比べ5が多く(44%)、平均4.2という結果であった。
3 普通、4 まあまあ満足が減り、満足と感じる生徒が増えている。
(平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は3種目、平均3台は2種目)
- 体力や技術向上の満足度も、評価5が最も多く(47%)、平均4.3という結果であった。
(平均4以上は9種目で、中でも平均4.5以上は4種目、平均3台は2種目)
- 仲間関係の満足度は、突出して5が多く(60%)、平均4.5という結果であった。
3の減が顕著であった。
(平均4以上は10種目で、中でも平均4.5以上は4種目、平均3台は1種目)

【中学生会員への意識調査結果-1】

問5 現在の活動量(学校部活動含む)日数や時間

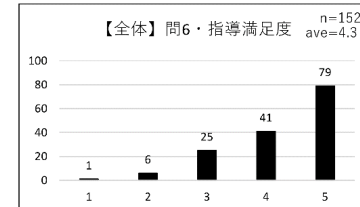
*活動日数、活動時間について、当てはまるものに○印を付けてください。

	学校部活動			TSC活動		
活動日数⇒	少ない	適当	多い	少ない	適当	多い
活動時間⇒	少ない	適当	多い	少ない	適当	多い

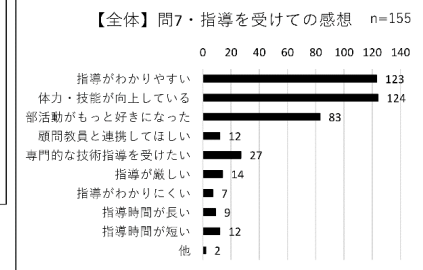


問6 コーチの指導の満足度

1(不満)～5(満足)



問7 コーチ指導の感想 [複数可]



- 活動量は、学校部活動について日数は約56%が適当、約40%が少ないとの回答であったが、時間数は約66%が適当、約30%が少ないと昨年より増えている。
またTSCについては日数が約57%、時間数は約71%が適当、約16%が少ないと回答。
- 指導の満足度は5が約51%と昨年の約41%より高評価を得た。平均は4.3であった。
(平均4以上が10種目で、中でも平均4.5以上は5種目)
- 「指導がわかりやすい、体力・技術が向上している」はそれぞれ約80%とUPし「指導が厳しい・わかりにくい」等の感想は昨年に比べ約9%・約4%と減少した。
全体的に昨年より生徒の意識、向上心が上がっているように感じられるのと指導者への満足度も上がっているのがうれしい結果となった

【中学生会員への意識調査結果-2】

2.実証内容と成果③

小学生へのニーズ調査結果

令和7年度山県市中学校部活動の地域展開事業

地域クラブ活動に関するニーズ調査結果

令和8年度からの中学校部活動の地域展開に向けて、市内9小学校の4～6年生を対象に、アンケート調査を実施しました。回答方法は、オンライン(ログフォーム)により実施しました。

調査実施時期 (小学校への依頼) 令和7年5月2日 (〆切) 令和7年6月30日

調査小学校 山県市立小学校 9校

調査対象学年 小学4年生、5年生、6年生

調査回答方法 オンライン(ログフォーム)、任意

回答者数

性別不明者は男でカウント

No.	学校	4年生		5年生		6年生		合計		在籍数	回答割合
		男	女	男	女	男	女	男	女	計	
	合計	22	27	35	24	22	32	80	83	163	30%

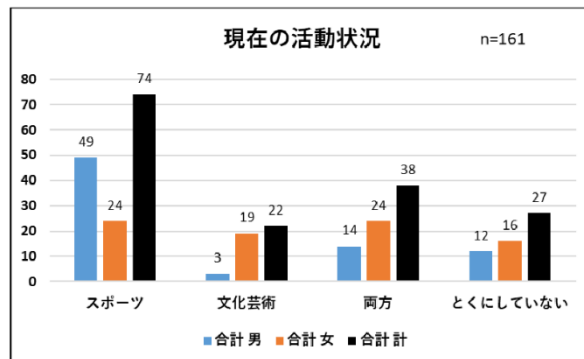
1. あなたは現在、学校の活動以外で、習い事としてスポーツ活動や文化芸術活動をしていますか。

- ・スポーツをしている子は74人(46%)、文化芸術活動をしている子は22人(14%)、両方の活動をしている子は38人(24%)であり、全体の83%の子は何らかの活動をしていることが分かりました。
- ・特にしていない子は、27人(17%)でした。

・学校の活動以外では、スポーツ活動をしている子が全体の約半数でした。

・スポーツは男子、文化芸術は女子の参加者の割合が多い傾向が見られました。

・スポーツと文化芸術の両方の活動を行っている子、複数の種目に参加している子もいました。



【小学生へのニーズ調査結果-1】

2. 「スポーツをしている」「スポーツと文化芸術活動の両方をしている」と答えた人への質問です。

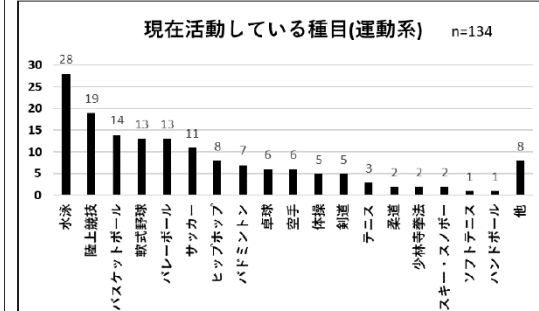
現在どんな活動をしていますか。(いくつ選んでもよいです)

【スポーツ種目名】

- ・軟式野球・硬式野球・ソフトボール・陸上競技・卓球・ソフトテニス・テニス・バレーボール・バドミントン・サッカー
- ・ハンドボール・バスケットボール・水泳・体操・新体操・柔道・剣道・空手・ヒップホップダンス・エアロビクスダンス
- ・少林寺拳法・スキー・スノーボード・スケート・ゴルフ・ラグビー・レスリング・その他

・1位は水泳、2位は陸上競技、3位はバスケットボール、4位は軟式野球、5位はバレーボール、6位はサッカーでした。

- ・山県市内や近郊には、スイミングやスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ(TSC)という環境があることが数値に表れています。
- ・特に、スポーツ少年団やTSCが小学生の活動を支えていることが分かります。
- ・運動系の複数種目で活動している子は35人(26%)いました。
- ・運動種目は、約20種目とニーズの多様化がみられました。



3. 「文化芸術活動をしている」「スポーツと文化芸術活動の両方をしている」と答えた人への質問です。

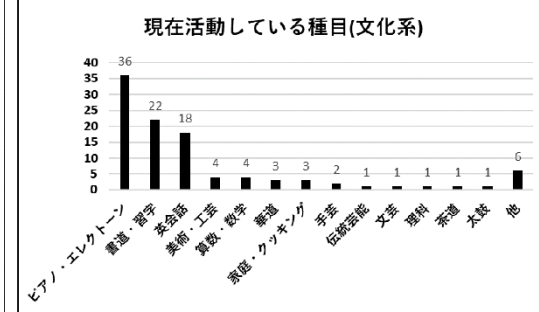
現在どんな活動をしていますか。(いくつ選んでもよいです)

【文化芸術種目名】

- ・ピアノ・エレクーン・バイオリン・フルート・ギター・吹奏楽・合唱・伝統芸能・文芸・手芸・書道習字・放送・演劇
- ・理科・茶道・華道・英会話・美術工芸・算数・数学・家庭クッキング・囲碁・将棋・バレエ・チアダンス・フラダンス
- ・太鼓・かるた・その他

・回答の多かった順にグラフに示しました。1位はピアノ・エレクーン、2位は書道習字、3位は英会話でした。

- ・ピアノ・エレクーンを行っている子が文化芸術系では最も多い結果でした。
- ・文化系の複数種目で活動している子は31人(23%)いました。また、運動系と文化系の両方で活動している子も38人(28%)いました。
- ・山県市子ども文化クラブや塾が活動の場となっていることが伺われます。



【小学生へのニーズ調査結果-2】

2.実証内容と成果④

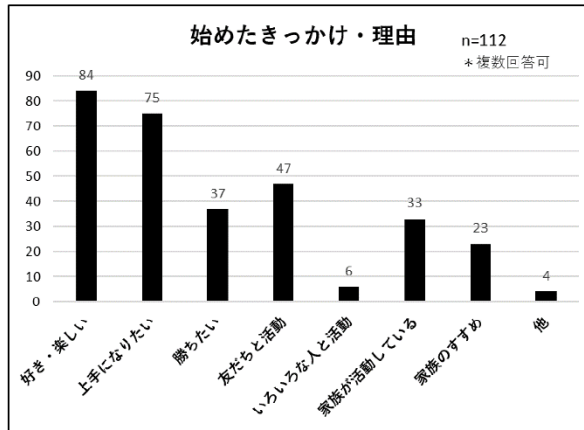
小学生へのニーズ調査結果

4. 「スポーツをしている」「文化芸術活動をしている」「スポーツと文化芸術活動の両方をしている」と答えた人への質問です。その活動をしているのはなぜですか。(いくつ選んでもよいです)

- ・好きだから、楽しいから
- ・上手になりたいから
- ・試合で勝ちたい、コンクールで賞をとりたいから
- ・友達と活動ができるから
- ・子どもから大人まで、いろいろな人と活動できるから
- ・親や兄弟姉妹など家族が活動している(していた)から
- ・親や兄弟姉妹など家族にすすめられたから
- ・その他

・始めたきっかけや理由で最も多かったものは、「好きだから・楽しいから」で、次いで「上手になりたいから」でした。興味・関心が高く、得意になりたいという願いによって、活動を始めていることが分かります。

・ほとんどの子が、複数の項目を選んでいました。



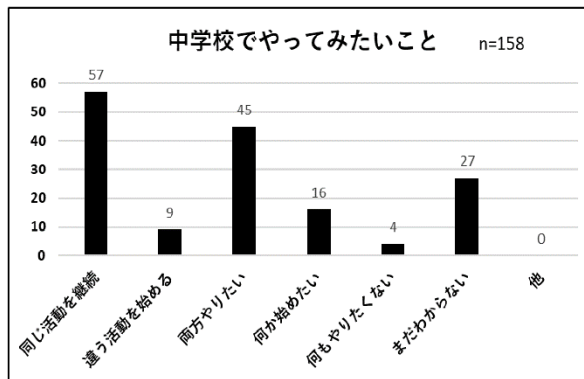
5. 学校以外での活動について、中学校になってからはどうしたいと思いますか。今の思いを教えてください。

・「同じ活動を継続したい」が57人(36%)、「同じ活動と違う活動の両方をやりたい」が45人(28%)、「違う活動を始める」が9人(6%)

・中学校でも今活動している種目を続けたいと答えた子が最も多くいました。

・やったことのない種目や今活動している種目と違う種目の両方をやりたいという希望も多いことから、いろいろなことに挑戦してみたいという願いがあることが分かりました。

・約80%の子は、中学校で何らかの活動をしたいという結果でした。



【小学生へのニーズ調査結果－3】

6. 中学校で、やってみたいスポーツ、文化芸術活動を選んでください。(いくつ選んでもよいです)

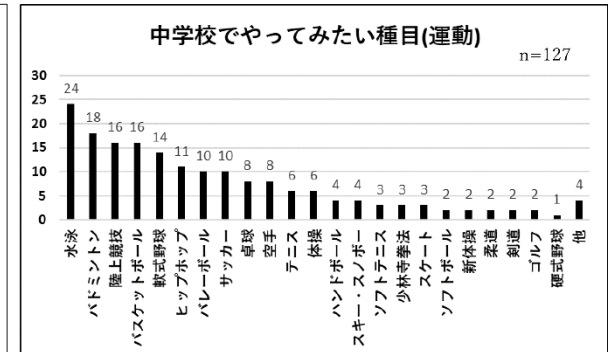
【スポーツ種目名】

- ・軟式野球・硬式野球・ソフトボール・陸上競技・卓球・ソフトテニス・テニス・バレーボール・バドミントン・サッカー
- ・ハンドボール・バスケットボール・水泳・体操・新体操・柔道・剣道・空手・ヒップホップダンス・エアロビクスダンス
- ・少林寺拳法・スキー・スノーボード・スケート・ゴルフ・ラグビー・レスリング・その他

1位是水泳、2位はバドミントン、3位は陸上競技、4位はバスケットボール、5位は軟式野球、6位はヒップホップでした。

・現在、中学校の部活動にない種目である水泳、ヒップホップ、空手、テニス、体操等の希望があり、今後の学校部活動や地域クラブ活動種目設置の参考にできと思っています。

・中学校でやってみたい種目では、バドミントンのニーズが高くなっています。

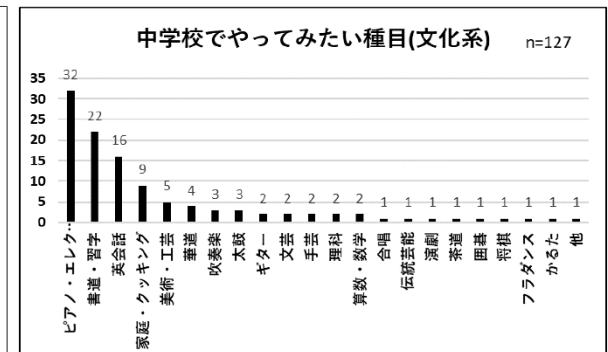


【文化芸術種目名】

- ・ピアノ・エレクトーン・バイオリン・フルート・ギター・吹奏楽・合唱・伝統芸能・文芸・手芸・書道習字・放送・演劇
- ・理科・茶道・華道・英会話・美術工芸・算数・数学・家庭クッキング・囲碁・将棋・バレエ・チアダンス・フラダンス
- ・太鼓・かるた・その他

・1位はピアノ・エレクトーン、2位は書道習字、3位は英会話、4位は家庭・クッキング、5位は美術・工芸でした。

・上位の種目(ピアノ・エレクトーン、書道・習字、英会話、家庭・クッキング等)は、現在の中学校部活動にはない種目であり、今後の学校部活動や地域クラブ活動種目設置の参考にできと思っています。



【小学生へのニーズ調査結果－4】

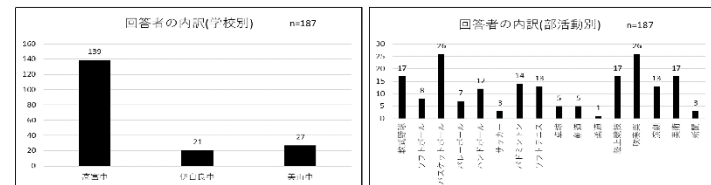
2.実証内容と成果⑤

保護者への移動手段調査結果

休日活動における移動手段に関する保護者アンケート結果【10月】

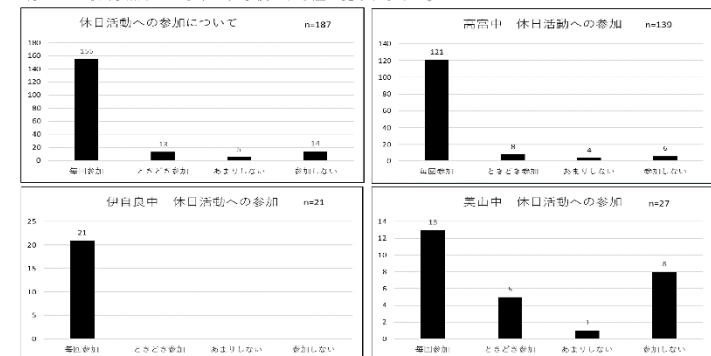
山梨県教育委員会

市内3中学校の部活動に所属する生徒を対象に、休日活動における移動手段に関する保護者アンケート調査を行い、187人（全271人）の回答を得ました。



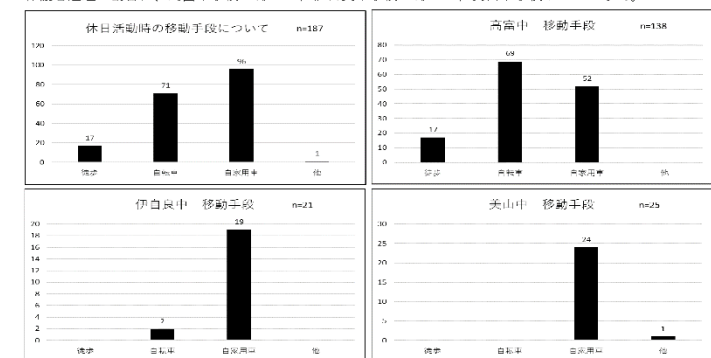
1 休日部活動への参加について

約83%が毎回参加していますが、学校による差が見られました。



2 休日活動時の移動手段について（参加しないは含めていない）

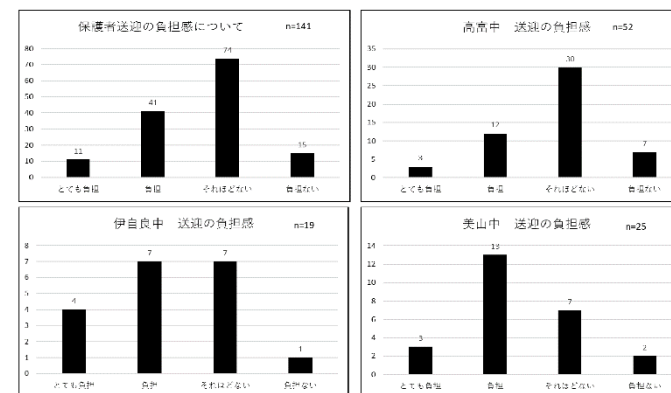
保護者送迎の割合は、高富中学校が約38%、伊自良中学校が約90%、美山中学校が96%でした。



【保護者への移動手段調査結果－1】

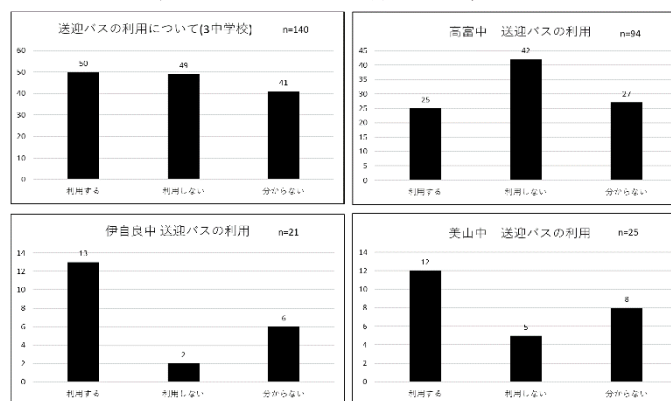
3 保護者送迎の負担感について

とても負担・負担の割合は約37%でした。（高富中学校29%、伊自良中学校58%、美山中学校64%）



4 送迎バスの利用について

伊自良中学校は約62%、美山中学校は48%が利用すると回答しています。



アンケート調査結果のまとめ

- ・バスのルートを実日と同じように「伊自良中－高富中」、「美山中－高富中」として調査をしました。
- ・回答率は、高富中は71%、伊自良中は57%、美山中は66%でした。
- ・休日活動に「毎回参加している」の回答は、高富中87%、伊自良中100%、美山中48%でした。
- ・伊自良中、美山中ともに移動手段は、ほぼ「保護者による送迎」でした。
- ・送迎の負担感は、伊自良中が約58%、美山中が64%で、高富中の29%に比べて高い結果でした。
- ・バスを「利用する」の回答は、伊自良中が約62%、美山中が約48%でした。

【保護者への移動手段調査結果－2】

2.実証内容と成果⑥

地域指導者募集・人材バンク設置

令和7年度山県市中学校部活動の地域展開事業 ～ 山県市地域指導者人材バンク設置 ～

中学生『スポーツ、文化芸術』部活動指導者募集要項

中学校部活動の地域展開が全国で進められております。このことは、「生徒数が減少し、部活動の存続が学校だけでは困難となるため、地域ぐるみで持続可能な部活動を展開する必要がある」という趣旨による施策です。

山県市では、総合型地域スポーツクラブ「NPO 法人チームヤマガタスポーツクラブ」（以下「TSC」という。）に地域部活動の運営団体を委託しています。運動系種目の多くは、TSC で地域部活動を展開していますが、種目によっては、今後指導者が不足する可能性があります。また、文化系種目は、地域指導者が不足している状況が続いています。

そこで、参加を希望する子どもたちが持続的に活動に参加できる環境整備を進めるために、「地域指導者」を募集します。

1 目 的

- どのような種目(活動)の指導者がおられるのかを把握し、山県市「地域指導者」人材バンクを整備することを目的としています。したがって、応募後、直ちに指導していただくものではありません。
- 種目(活動)の合理的・効率的・効果的な指導助言のできる指導者を確保することを目的としています。

2 地域クラブ活動指導者の応募要件

- (1) 子どもたちの健全な育成と責任と情熱を持ち、携わることができる方
(暴力・暴言・ハラスメントの根絶を遵守でき、学校部活動の方針に沿って指導にあたっていただける方)
- (2) 18歳以上の方（高校生は不可）
＊競技・活動歴や指導歴のある方、公認指導者資格のある方は登録申込書にご記入ください。

3 募集種目

- (1) 市内設置部活動種目（バレーボール、ハンドボール、剣道、バスケットボール、バドミントン、卓球、ソフトテニス、陸上競技、ソフトボール、サッカー、軟式野球、吹奏楽、美術、演劇、新聞）
- (2) その他種目(例)（テニス、空手、少林寺拳法、ゴルフ、合唱、書道など）

4 指導可能時間

- 平日の夕方、土日などが主な活動となりますが、指導が可能な曜日や時間帯をお知らせください。

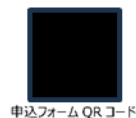
5 登録後の連絡等について

- 応募された方には、「山県市地域指導者人材バンク登録証」を送付します。
- 指導をお願いしたい方には、山県市教育委員会生涯学習課からお電話などでご相談させていただきます。

6 応募方法

応募方法① 右の QR コードから「申込フォーム」を入力し、申し込む。

応募方法②「申込書」に必要事項を記入し、郵送または直接窓口へ申し込む。



7 応募・問合せ先 山県市教育委員会生涯学習課 地域部活動担当
〒501-2113 山県市高木 1675 山県市総合体育館内 Tel: 0581-22-6622

【地域指導者募集要項】

令和7年度山県市中学校部活動の地域展開事業 山県市地域指導者人材バンク登録申込書

応募方法	方法① 右の QR コードから「申込フォーム」を入力し、申し込む。
方法	方法② 「本申込書」に記入し、郵送又は直接窓口へ申し込む。

ふりがな	氏名	性別	男・女
生年月日	(西暦) 年 月 日生		
自宅住所	〒 ー		
電話番号			
メールアドレス			

指導可能な内容等について、下表にご記入ください。

指導者登録内容	指導種目等
指導可能時間等	土・日、平日の夕方など、指導可能な曜日や時間帯をお知らせください。 (現在の部活動: 平日は水曜日 15:30～17:15、土日は午前または午後)
指導者資格	保有の方はご記入ください。
指導歴	
競技・活動歴	
その他参考事項	依頼する際に参考になることがありましたら、ご記入ください。

※記入提出していただきました本申込書は、厳重に管理し、目的以外には使用いたしません。

申込書送付先	山県市教育委員会生涯学習課 地域部活動担当 〒501-2113 岐阜県山県市高木1675 山県市総合体育館内 Tel: 0581-22-6622
--------	--

■□■□■本申込書の記入内容は、コピー等により、ご自分で確認できるようにしてください。■□■□■

【地域指導者人材バンク登録申込書】

2.実証内容と成果⑦

運営団体TSCから中学生への広報周知

NPO 法人 Team-yamagata Sports Club チームヤマガタスポーツクラブ

中学生プログラム2025紹介

概要

対 象
居住地域や所属
中学校に限らず
入会できます！

会 員
スクール・広場に
参加できます！
(複数参加可)

会員/非会員
中学生が参加できる
スポーツ教室があります！
(会員は受講料が割引)

- * 中学生スクールの内、スクール A(休日週 1 回)は学校部活動の地域移行事業(地域部活動)として実施します。
- * 要保護・準要保護家庭の方へは会費等を扶助します。
- * 地域クラブチームとしての大会参加は、条件が整った種目から開始します。
- * クラブ活動や入会等の詳細はクラブハウスにお尋ねください。

6 年度は 3 1 2 名の
中学生が活動！

部活動の地域移行を受けて、中学生を対象とした活動を

11 競技について受け入れています！



TSC チームでの大会出場は、卓球、陸上競技、剣道、バレーボールの予定です！
コーチ陣は、日本スポーツ協会や岐阜県公認地域指導者が指導運営にあたります！
また、TSC スキルアップ研修会（講義や演習）も積極的に実施しています！



中学生のみなさん、TSC 会員になってスポーツを楽しみましょう！

お問合せ先 NPO 法人 Team-yamagata Sports Club 事務局
〒501-2113 山県市高木 1675 山県市総合運動場内 TEL:0581-23-0330

【中学生プログラム紹介】

中学生スクールのご紹介

- スクール A は、休日部活動を委託されて行う活動です。(地域部活動)
- スクール B は、TSC が独自に行う活動です。(TSC クラブ活動)

バレーボール 男・女

日 時: (A) 女子 日 13:00~16:00
(B) 男女 月 18:00~21:00
(B) 女子 木 18:00~21:00

場 所: 総合体育館・美山中体育館

コ ー チ:



大 会: ビーチバレー4人制・2人制
新人戦に TSC チームで出場

バスケットボール 男・女

日 時: (A) 女子 日 13:00~16:00
(B) 男女 火 18:30~21:00
(B) 男女 土 13:00~16:00
偶数月の(土)は 9:00~12:00

場 所: 高富中体育館

コ ー チ:



ソフトテニス 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 日 16:30~18:30

場 所: 総合テニスコート

コ ー チ:



サッカー 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 日 9:00~12:00
夏季は 8:00~10:00

場 所: 高富中グラウンド

コ ー チ:



ハンドボール 男

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 日 9:00~12:00
偶数月の(土)は 12:30~15:30

場 所: 高富中体育館

コ ー チ:



剣 道 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00

場 所: 総合体育館多目的ホール

コ ー チ:

大 会: TSC チームで出場
(令和 7 年度から)



バドミントン 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00

場 所: 総合体育館

コ ー チ:



卓 球 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 木 18:00~21:00

場 所: 高富コミュニティセンター

コ ー チ:

大 会: TSC チームで出場
(令和 6 年度から)

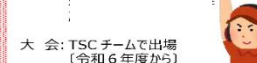


陸上競技 男・女

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 水・金 19:00~21:00
夏季の(土)は 8:00~11:00

場 所: 高富中グラウンド

コ ー チ:



大 会: TSC チームで出場
(令和 6 年度から)

ソフトボール 女

日 時: (A) 土 9:00~12:00
(B) 日 9:00~12:00

場 所: 総合グラウンド・伊自良中グラウンド

コ ー チ:



その他の中学生対象プログラム
スポーツ広場
バドミントン、剣道会(剣道)
バスケットボール(YBC)、卓球
ソフトテニス、ランニングクラブ(陸上)

中学生競技力向上教室(受講料要)
○バドミントン
○剣道・居合道
○ソフトテニス

* スクール A(A)、スクール B(B)と表記。

* 斜体の活動は、実施種目と実施しない種目あり。

* 大会の表記がない種目は、現段階では学校部活動チームとして出場。



【中学生プログラム紹介】配布チラシにはコーチ名掲載

2.実証内容と成果⑧

運営団体TSCから中学生への広報周知

「TSC 会員入会案内」

7 年度の入会受付は既に始まっています。
TSC の入会は「希望加入」です。但し、地域部活動や TSC 活動に参加希望の方は入会が必要です。また、エントリー種目は複数可能です。
入会には「入会金・年会費・保険料」が必要です。3 年生は期間を選択できます。
TSC には要保護・準要保護家庭への扶助制度があります。
入会に関する詳細はクラブハウスにお問い合わせください。(TEL:23-0330)

入会金・年会費・保険料			
区分	金額		
入会金	1,000円		
年会費	区分別	I 期	II 期
	山県市内	8,000円	5,000円
	山県市外	7,000円	6,000円
	山県市内	半期4,000円	年間6,000円
	山県市外	半期5,000円	年間7,000円
保険	中学生以下	800円	
	若 (ワイド)	1,450円	
	高校生以上	1,850円	
	65歳以上	1,200円	

■ 対象者
次に該当し、山県市内小・中学校に在籍する児童生徒の家庭
(1)生活保護法第 6 条第 2 項の規程による要保護者
(2)市町村教育委員会が就学援助費事務取扱要綱等によって認定した準要保護者
■ 扶助内容
要保護者⇒年会費全額免除
準要保護者⇒年会費半額免除
(地域部活動種目)
要保護・準要保護者とも
年会費・入会金・保険料を全額免除

入会にあたっての参考

- 中学生スクール・広場のエントリーは複数種目可能です。(昨年度の例：陸上と卓球、剣道とバスケット、陸上と野球など)
- 部活動と同じ種目で、部活動に入らずに TSC に入会」など、ニーズに応じた選び方が可能です。
- 「TSC チーム」で参加予定の種目の費用▶登録費や大会参加費等、大会に必要な費用は、TSC 年会費とは別に必要となります。

「TSC 活動にあたって」 ～ 方針と約束 ～

- 共通方針 中学生スクールでは、種目は違っていても同じ方針の下で指導にあたります。
- 【考える力】よくなるために、目標や課題をもち、粘り強く取り組みましょう！
 - 【豊かな心】お互いに励まし合い、教え合い、高め合いましょう！
 - 【良いマナー】率先あいさつ、率先準備 & 片付けをしましょう！

- 参加の約束 学校部活動参加の約束は、TSC 活動でも同じように守るようにお願いします。
- 1 寄り道をしない
 - 2 不要な物を携帯しない
 - 3 自転車はルールを守って(ヘルメット着用)
 - 4 あいさつの励行
 - 5 活動に遅れた/決められた服装
 - 6 時間を守る
 - 7 モップかけやグラウンド整備をしっかりと行う
 - 8 活動後は速やかに帰宅する
 - 9 学級閉鎖中はクラブ活動への参加は自粛する

「指導体制及びコーチについて」

- 小中学生スクールのコーチは、クラブボランティアが担当しています。(有償ボランティア)
- スクールや広場を担当するコーチやリーダーに「委嘱状」を交付し、中学生スクール A(地域部活動)担当コーチには、「委任状」を交付しています。どの指導者にも責任と自覚をもって指導にあたってもらっています。
- 市内小中学校の先生方で、指導を希望される方は TSC コーチに登録して指導にあたっています。
- 地域部活動の指導者は、主任コーチ 1 人と担当コーチ 2 人の 3 名を基本として配置します。
- 「岐阜県地域指導者研修会」の受講が義務づけられ、TSC コーチは昨年度までに約 50 名が受講し、認定されています。また、地域クラブチームとして大会参加するためには、上位資格が必要な種目もありますので、資格取得を進めています。
- 指導者には、『暴力・暴言・ハラスメントの根絶』が強く求められています。指導者は、中学生や保護者から信頼されなければなりません。TSC では、指導者に関する相談と適切な対応ができるように、倫理委員会を設置し、公正な対応ができるように体制を整えています。また、指導者の資質向上のために、県の研修はもちろん、TSC スキルアップ研修会、岐阜県スポーツ科学センターによる研修等の機会を通じて、指導力を高めています。

【入会案内・方針と約束・コーチについて】

「山県市の現状・課題」

山県市では生徒数減少の傾向が続くことから山県市合同部活動への移行を進めています。



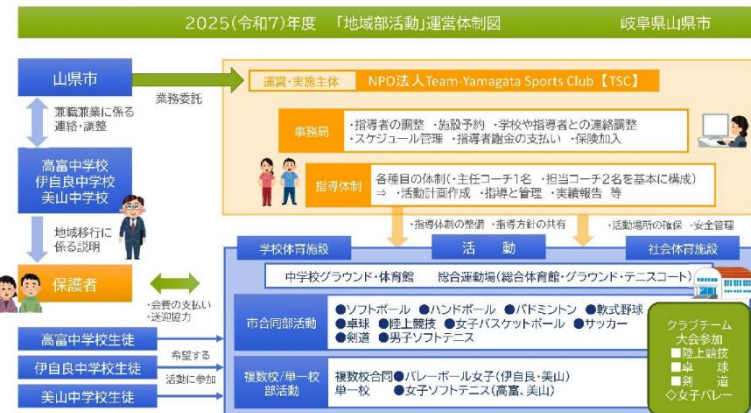
令和 6 年度 山県市立中学校部活動の現状

- 1 部活動数(2人部) 7.9% (前年度 7.7%、伊豆市 8.3%、美山 8.2%)
- 2 参加人数(1人部) 運動部 7.2%、文化系 2.8%
- 3 部活動活動

部 門	種 別	部 員 数	部 数
合計数		460	27
(1) 山県市合同部活動		326	27
種別			
運動部		294	27
文化系		261	14
(2) 2校合同部活動		0	7
(3) 単一校部活動		134	26
種別			
運動部		134	26
文化系		13	4

「地域部活動 運営体制について」

TSC は、山県市から「休日部活動の地域移行」に係る国の実証事業の委託を令和 5 年度から受けています。
そこで、学校部活動と連携を図り、円滑で充実した活動が展開できるように、「スクール活動、研修、調査」を実施しています。



中学生も学びますが、コーチもともに学び続けていきます！



【山県市の現状・運営体制について】

2.実証内容と成果⑨

参考資料（委嘱状交付式・指導者研修会写真）



【委嘱状交付式 TSC理事長あいさつ】



【委嘱状交付】



【指導者研修会～垂直とび測定方法の研修～】



【ジャンプの体の使い方指導～中学生をモデルに～】

2.実証内容と成果⑩

参考資料（活動写真・スクール訪問参加者の感想）



【スクール訪問参加者からの感想メモ】

- ・ 活動環境が充実。（スペース、器具）
- ・ 自主的な活動と指導を受ける時間のメリハリがある。
- ・ 子ども同士のサポートができていた。
- ・ 異年齢で活動するよさを感じた。
- ・ キャプテン中心に、新1年生へ活動の流れ等を積極的に教えていた姿が印象的だった。
- ・ 他校の生徒コミュニケーションを図りながら、活動を行う姿も印象的であった。
- ・ 3中学校の生徒、小学生の合同で練習していたが、中学校や異年齢の区別なく、指導している状態は良かった。
- ・ 練習を楽しんでやっており、苦しそう顔をした生徒はいなかった。
- ・ 小学生、中学生が準備から協力して声をかけながら、練習を行っている姿が良い。

【卓球スクール】



【スクール訪問参加者からの感想メモ】

- ・ 生徒の楽しそうな活動ぶりが良かった。生徒たちがそれぞれの課題をしっかりとっているところが良い。
- ・ 個人の課題に対して、温かい支援・指導がとても素晴らしかった。
- ・ コーチの熱心な指導で部活動／TSCの活動が成立していると感じました。
- ・ 初心者も楽しんで練習をたくさん工夫されていることも素晴らしいと思います。
- ・ 基礎的な練習も、コツコツとできている姿があり、良かったです。
- ・ ゲーム形式では気合いの入った声が響いて活気のある練習ができていて良かったです。指導者の工夫が活かされていました。
- ・ 十分な練習スペースが確保され、1年生もネットを使用して活動できていた。
- ・ 学年に応じて異なる練習をしており、その生徒に合った活動になっていた。
- ・ コート数が確保されていて良い。（人数とコート数）
- ・ 練習環境のよさ。スポーツする楽しさを味わっていた感じがした。（雰囲気良く）
- ・ お互いに工夫して練習がなされていたと思う。
- ・ 半面では、小学生スクール、広場が行われており、環境的に多世代がアリーナ全面でバドミントン活動を行っているのが良い。
- ・ 1年生も多く、一生懸命練習をしていた。

【バドミントンスクール】

2.実証内容と成果⑪

参考資料（活動写真・スクール訪問参加者の感想）



【スクール訪問参加者の感想メモ】

- 活気があり、チームワークも良さそうで、ハンドボールへの“熱”を感じた。この意欲、やる気を大切にしてほしいと感じた。
- 指導者の熱意を強く感じた。指導への手順や配置等、計画的、意図的で素晴らしいと感じた。今後を期待している。
- 3人のコーチの丁寧で適切な声かけや指導によって、生徒一人一人が意欲的に取り組んでいる姿がとても印象的でした。クラブチーム化のロールモデルだと思います。
- 真剣な表情で、ハキハキした返事、キビキビした動き、とても素晴らしかったです。指導者のみなさんの指導が活かされていると思いました。人数が多くて、練習内容が工夫されていて、どの子も頑張っている姿が見られ、うれしかったです。
- 「よりよいプレーができるようになりたい」という雰囲気での練習が行われていた。
- 生徒から指導者へ質問する様子があり、双方向のコミュニケーションが生まれていた。
- 人数が多く、活気があって良かった。入口側へのシュートタイミングで注意が必要。
- 練習に力強さ、真剣さがあつた。指導者も一緒になっての練習のよさ。
- 中学生の体格のよさを実感。体力も、ジャンプ力も。
- 指導者と一緒に活動していたことは、生徒にとっても刺激になると考える。
- 指導者の熱意が伝わった活動が展開されていたと思う。
- スポーツマンらしい態度が良かった。
- 激しい運動の中、瞬間を見極めて指導を行っており、指導者のレベルも高いと感じた。
- チームプレーの場面が多くあり、力強い練習を見ることができた。
- 中学生でありながら、高校生のような強さがあった。

【ハンドボールスクール】



【スクール訪問参加者の感想メモ】

- 先輩と後輩も楽しそうで、一体感のある活動が素晴らしい。
- 指導者も温かい支援、指導ぶりがうれしかった。今後が大いに期待できる。
- 楽しい雰囲気の中にも、互いに声をかけ合って練習に取り組む様子がよく伝わってきました。上級生が下級生を引っ張っていることも今の強さの秘訣ではないでしょうか。
- 狭い場所での練習でも明るい雰囲気でも楽しそうに練習している姿が良かったです。指導者のみなさんの雰囲気をつくり方、保護者のみなさんの協力も有難いです。
- 和やかな雰囲気での練習をする様子があった。
- 生涯スポーツとして、「中学を卒業しても続けたい」と思えるような指導を続けていただきたい。
- スタッフと保護者が一体となってスタートし、頑張っていると感じた。
- 話を聞く態度が良く、集中していた。
- 指導者のみなさんの雰囲気が良い。威圧感がない。
- 技術的な指導により、生徒にわかりやすい対応をしていた。雨天で限られたスペースだったが、練習に工夫がされていた。
- 保護者、指導者のコミュニケーションがよくとれている。

【軟式野球スクール】

2.実証内容と成果⑫

参考資料（活動写真・スクール訪問参加者の感想）



【スクール訪問参加者からの感想メモ】

- ・ 子どもの取組が、真剣に楽しんでいる様子がとても良い。
- ・ 指導者のきめ細かい指導が素晴らしい。今後も温かく生徒を育ててほしい。
- ・ 指導者の指導を受けて、3校の生徒が目標をもちながら練習に取り組んでいる様子が伝わってきました。指導者の丁寧で細やかな指導で一人一人に自信をつけていただいていることに感謝します。
- ・ 軸の大切さがコーチから丁寧に指導されていて、どの競技にも使えることで、学校の指導にも生かしたいと思いました。
- ・ 上級生の返事や挨拶の姿が良い手本になっていると感じました。
- ・ 身体の部位の動かし方について、指導者が示範する様子があった。
- ・ 生徒にとって、今まで考えたことのない身体の運用に気づくことが、大きな学びになっていると感じた。
- ・ 基礎基本をしっかりとするための指導がわかりやすく説明され、良かった。
- ・ 雨天で場所は限られていたが、真剣な態度で活動していた。
- ・ 指導者の指導を理解し活動を行う姿と他校の生徒と一緒に活動を行う姿を見学し、活気があった。
- ・ 指導者からの専門的知識と的確な指導により、技術的な面の向上につながると考える。
- ・ 基礎的な技術指導を行っていた。しっかり基礎を指導してもらえることは、生徒たちの今後の活躍につながってくると思う。
- ・ 指導者も競技、指導方法等生徒の能力を伸ばすよう、工夫されている。

【陸上競技スクール】



【スクール訪問参加者からの感想メモ】

- ・ 心技体そして規律等、きちんと指導されている。生徒にも安心感があり、とてもすばらしい。
- ・ 指導者は、生徒の調子を見ながら、計画的に指導されていることがよく分かりました。
- ・ 本日参加の中学生は少なかったですが、学年や学校を超えて教え合い支え合う練習が行われていることに感心しました。小学生からのつながりが大切にされていることも素晴らしいです。
- ・ 少人数でも、キビキビした雰囲気、リーダーが指導者からの指示をしっかりと伝え、よいポイントを意識した練習になっていて素晴らしいかったです。指導者が実際に動きを相手して稽古していただき、有難かったです。
- ・ 部長（リーダー）の生徒が中心となって活動が進められていた。
- ・ 武道は生涯にわたって修練に励むことができるため、剣道・柔道以外も選択肢が増える可能性がある。
- ・ 今回は人数が少なかったが、指導者の長い経験で順調に成長すると感じた。
- ・ 指導者の姿勢（剣道に向かう真摯な態度）が生徒にも伝わっていた。
- ・ 真剣な練習（打ち込み等）に、中学生のスポーツに対する熱が感じられた。
- ・ 剣道においても、半面で小学生の活動が行われており、中学生・小学生のお互いの刺激になっていると思う。
- ・ 少人数であったが、指導者による助言により、生徒から練習での注意点、改善する動作等確認し、主体的に行っていた。
- ・ 生徒の動きが規律正しく、よく指導されている。

【剣道スクール】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

推進会議
設置/協議

教員意識調査
地域団体打診

方針・計画
受け皿団体

令和5年

地域部活動開始
・モデル先行実施

令和8年

地域クラブ活動拡大
・平日実施
・大会参加

令和9年

地域クラブ活動拡大
・文化部含め
・完全実施

「山県市合同部活動」開始

- 市教委
 - ・少子化と安定的活動保障
学校の枠を超えた参加環境
- 経過
 - ・令和2年度開始 2種目
 - ・令和3年度 10種目
 - ・令和5年度 11種目
- 実施にあたって生じた課題
 - ・拠点校への移動→バス運行
(水曜日放課後バス運行)
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・合同部活動の必要性理解
 - ・関係者の合意を得て

山県市地域部活動推進会議

- 委員構成
 - ・元大学教授・元教育長
 - ・地域団体・保護者代表
 - ・学校代表・教育長
 - ・市教委担当
- 経過
 - ・年3回会議開催
 - ・部活動の現状と課題
 - ・山県市に合った方策
- 実施にあたって生じた課題
 - ・文化系の受け皿団体困難
 - ・一律実施は困難
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・一律でなく「できることから」
行う段階的に試行しながら
検証していく。

「地域部活動実証事業」開始

- 運営団体（運動系）
NPO法人TSC
- 経過
 - ・種目の選定はTSCと連携
している部から実施
- 実施にあたって生じた課題
 - ・会費・移動負担・他クラブ
加入生徒等から合意が得
られなかった部があった。
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・運営団体の運営や指導上
の課題に対して、コーディネ
ーターを中心に働きかけて
軌道に乗せるようにした。
 - ・三者会議を開催し、共通理
解を図った。

「地域クラブ活動」完全実施

- 方針
 - ・山県市合同部活動移行
 - ・休日部活動の完全移行
 - ・平日放課後も完全移行
(希望教員は職専免で)
- 課題と対策
 - ・活動場所への移動支援
→送迎バス運行支援
→平日1日+土曜日
 - ・大会への地域クラブ参加
→大会参加基準の明確化
 - ・受益者負担と支援方針
 - ・文化系部活動の地域移行
→指導者確保
→学校施設の使用方法
 - ・多様なニーズと地域環境

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和7年4月 山県市教育委員会

年度		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
		令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9	令和 1 0	令和 1 1	令和 1 2	令和 1 3
提 言 等	スポーツ庁・文化庁 岐阜県	中学校部活動の在り方検討会議 (実証事業)				地域移行等活動整備事業 (実証事業／補助事業)			進捗状況を検証し、さらに改革『平日部活動の地域展開へ』				
		国／県 総合的なガイドライン策定 (令和5年3月)				部活動改革推進期間			部活動改革実行期間【前期】		部活動改革実行期間【後期】		
	(公財)日本中学校体育連盟	学校単位(一部複数校合同)での参加				⇒大会参加資格の緩和 (令和5年度から)			⇒9競技の全国大会廃止(令和9年度から)				
市 方 針	山県市	第Ⅰ期「山県市合同部活動」設置と推進						第Ⅲ期「地域部活動」完全実施					
		部活動と地域クラブの連携(since2001) 平日は学校で・休日は地域で 街ぐるみで子どもを育てる			第Ⅱ期「地域部活動」段階的移行			「新しいスタイルの学校部活動」スタート					
					学校部活動の地域連携			○休日は地域クラブで活動			○平日も地域クラブで活動		
市 立 中 学 校 部 活 動	高富中	432	432	402	420	415	402	411	408	391	358	324	324
	伊自良中	73	69	71	72	65	63	66	63	58	56	52	51
	美山中	139	139	138	123	106	96	96	98	89	80	70	77
	市内中学生数	644	640	611	615	586	561	573	569	538	494	446	452
	山県市合同部活動	運動：2部	運動：6部 文化：4部	運動：6部 文化：4部	運動：7部 文化：4部	運動：10部 文化：4部	運動：13部 文化：4部	運動：15部 文化：4部	○種目の追加／変更／休廃部 (生徒のニーズ、地域の環境、部員数)				
	学校部活動 の地域展開				「休日」は地域部活動へ (保護者会等の合意形成)		全運動部	全部活動完了 「休日は地域クラブ」		「部活種目＋地域クラブ種目」から選択			
	学校部活動 の地域連携				地域指導者や専門家の派遣		文化部 *休日実施部						
	設置部活動							小学生ニーズ調査の実施			新しい部活動設置による運営		
市 地 域 ク ラ ブ 等 環 境	総合型地域スポーツクラブ NPO法人 Team-yamagata Sports Club	高富中校区→山県市		○多種目・多世代・多志向プログラム・受益者負担とボランティアによる運営									
		中学生の参加できるプログラム提供 ～スクール、スポーツ広場、スポーツ教室～			運営団体・実施主体として 実証事業の実施と検証			文化系部活動 受入準備	会員区分 会費改正	○平日放課後プログラム着手			
					指導者の資質向上 ▶ 県・市研修会 JSPO等公認指導者資格取得の促進								
	スポーツ/文化関係団体	競技大会出場・運営、市民参加大会開催				指導者の質の保証と量の確保 / 大会参加・運営協力							
	学校施設の整備				休日の文化系部活動方針			校舎整備	休日の使用実施検証				

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県瑞穂市

自治体名：岐阜県瑞穂市

担当課名：教育委員会 生涯学習課

電話番号：058-327-2117

1.自治体の基本情報

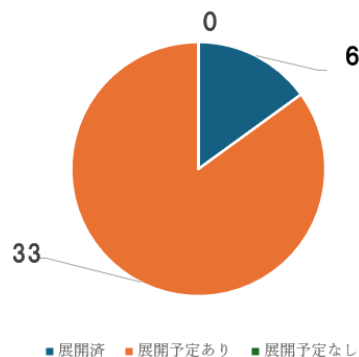
基本情報

面積	28.19km ²
人口	56,225人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1767人
部活動数 (運動部活動のみ)	39部活
地域クラブ活動数	33クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	策定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

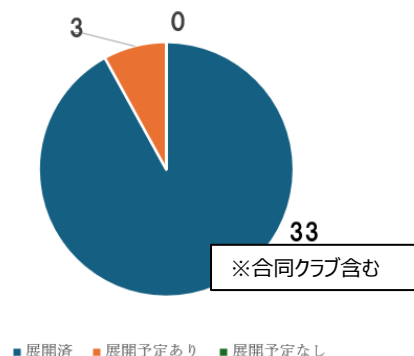
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

令和7年度4月当初には、サッカー部、ソフトボール部、陸上競技部（1中学校）、剣道部（3クラブ）の計6つの部活動が地域クラブへ展開した。その後、令和7年度中に市内中学校の全ての部活動が地域展開を実施できるよう、体制整備を進めてきた。当市は人口増加が続いているものの、児童生徒数は減少傾向にあり、将来を見据えると少子化に対応した取組を進めていく必要がある。3中学校における各部活動でも、団体競技においてチーム編成が可能な部と、部員数が数名にとどまる部との間で大きな差が生じている。同種目で男女が合同で活動する、学校間で合同チームを組む等、地域クラブ活動の在り方について検討していくことが求められる。また、地域クラブへの展開にあたり、「地域指導者の確保」と「保護者会の負担軽減」が大きな課題となった。本市では、「地域の子どもは地域で育てる」「子どもに軸足を置いた地域クラブ活動」を目標として掲げ、保護者や指導者への理解啓発を進めるとともに、教職員の働き方改革にも寄与する取組を進めてきた。その結果、合同クラブを含む33クラブが地域クラブとして展開を完了し、残る3部活動についても地域展開の見通しが立っている。今後は、地域クラブ運営において新たに顕在化した課題（施設利用、活動費等）への対応が必要となる。先進自治体の事例も参考にしながら、課題解決に向けた方策を検討していく。

地域展開進捗状況 R7.4月現在



地域展開進捗状況 R7.12月現在



出典:瑞穂市教育委員会 生涯学習課

2.実証内容と成果

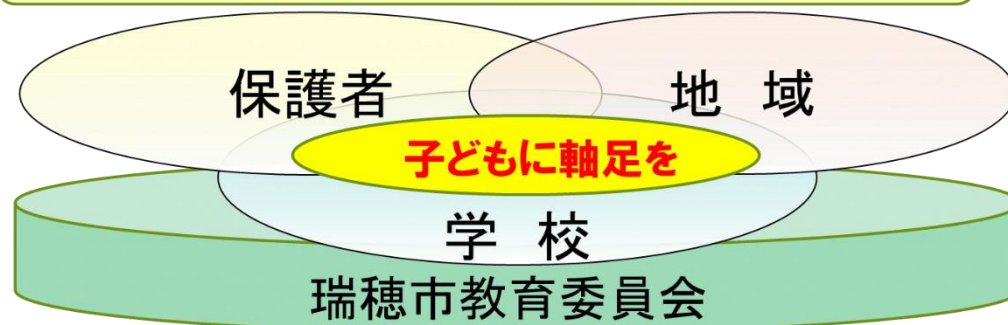
運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

瑞穂市地域クラブ活動

地域の子どもたちは、地域で育てる

保護者、地域、学校の3者連携協働型



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…学校との調整・連携、学校に関する事項について対応
- ・生涯学習課…地域展開の主幹、中学生の地域文化活動の環境整備
コーディネーターの設置
→学校、保護者、指導者等の関係者との連携・調整

◎首長部局

- ・財務情報課…予算措置、ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

令和7年4月	地域クラブ活動の実施
令和7年4月	地域指導者委嘱式兼研修会の開催
令和7年4月～	統括コーディネーターによる地域クラブ活動及び学校部活動の視察
令和7年4月～	統括コーディネーターによる地域クラブ活動及び学校部活動関係者との意見交換
令和7年7月	第1回保護者説明会の開催
令和7年8月	第1回地域クラブ活動推進委員会の開催
令和8年2月	第2回保護者説明会の開催

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		33クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	33クラブ（35部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	92人	全体の運営スタッフ数	約100人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
巢南中 ダンスクラブ	保護者会	ダンス	基本 休日4・5回／月	土曜 9:00-11:30	3年15人 2年14人 1年 8人	令和6年 4月～	2人	3人 (兼務0人)	月会費 500円 ／月	中体連 →部活動 その他 →地域クラブ
穂積中 陸上クラブ	保護者会	陸上競技	基本 休日4・5回／月	土曜 8:00-11:00	3年15人 2年13人 1年27人	令和7年 4月～	2人	3人 (兼務0人)	月会費 500円 ／月	中体連 →部活動 その他 →地域クラブ
穂積北中 男子バレー ボールクラブ	保護者会	バレーボール	基本 休日4・5回／月	土曜または日曜 9:00-12:00 もしくは 13:00-16:00	2年8人 1年6人	令和7年 8月～	2人	3人 (兼務0人)	月会費 500円 ／月	中体連 →部活動 その他 →地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 平日に所属している中学校部活動とは異なる地域クラブ活動への参加も奨励。体験も可。

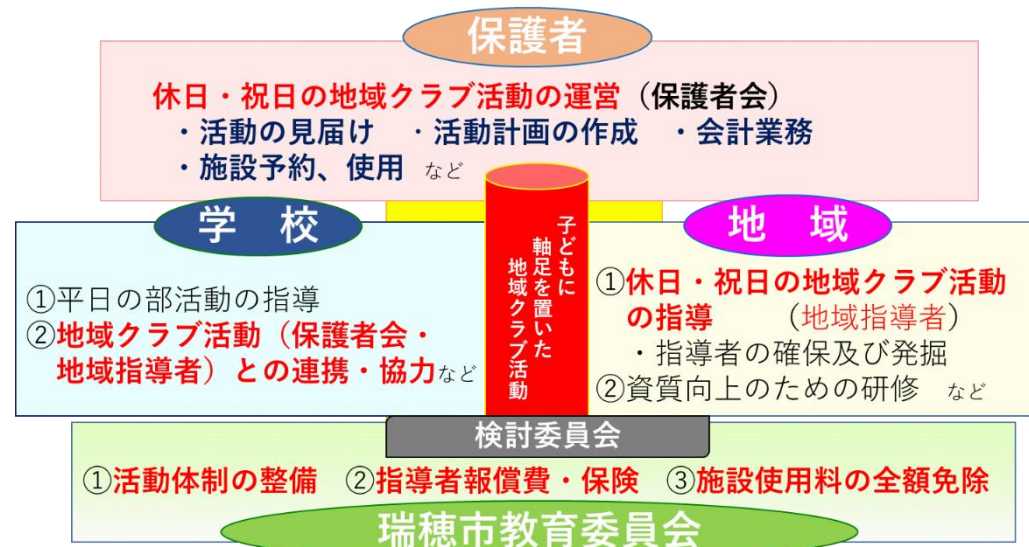
2.実証内容と成果

主な取組例

●瑞穂市地域クラブ活動 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、陸上競技、ソフトテニス バレーボール、バスケットボール 卓球、剣道、柔道、ソフトボール 水泳、バドミントン、ダンス
運営団体名	瑞穂市教育委員会
期間と日数	基本毎週1回 月4・5回程度
指導者の主な属性	経験者・中学校教員
活動場所	3中学校体育施設、市内体育施設
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等 (年額)	月額500円 (年額6,000円)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒：800円（各保護者会にて加入） 指導者：1,850円 （教育委員会にて加入）

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- ・保護者会長（統括責任者） 1名
役割：活動における管理者として、指導者、学校との連携を行う
- ・保護者会役員 1～2名
役割：施設予約や会計等の運営事務や会長の補佐を行う
- ・地域指導者（主任指導者）数名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 広域的な活動を担う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体及び中学校との連絡調整や指導助言等を行う。
- ・ 運営団体・実施主体において、運営体制の整備や人材の確保を進め、持続可能な運営が可能となる組織体制を構築する。
- ・ 参加者管理、施設予約の取りまとめ、指導者の活動管理、参加者・指導者への連絡等について、NPO法人へ委託する。

取組の成果

- ・ 統括コーディネーターを運営団体に配置したことで、関係団体との連絡調整や会議運営等を円滑に進めることができた。
- ・ 市体育協会、スポーツ少年団、中学校長会、PTA等と効果的に連携し、運営団体・実施主体と中学校との連絡調整等を行うことができた。
- ・ 委託先であるNPO法人との連携により、業務負担の軽減及びコスト削減を図ることができた。

今後の取組における課題

- ・ 本年度は地域クラブへの移行期であることから、展開条件として指導者ライセンスについて「取得見込み可」と緩和した基準を設定してきた。しかし今後は、市が認定する地域クラブとしての要件を明確に定める必要がある。
- ・ 部活動から地域クラブへ移行する際、従来の社会人指導者がそのまま地域指導者となっているが、指導者が1名のみのクラブもあり、有事に備え複数名で指導できる体制を整えることが望ましい。
- ・ 指導者の報償費や保険料、実施主体への補助金等によって歳出が当初予算を上回っているため、予算の見直しが必要である。

課題への対応方針

- ・ 今後、国が示す地域スポーツクラブ活動の認定要件等を踏まえ、市としての認定要件や基準を整理・設定し、登録・指定等の手続きを行う必要がある。
- ・ 地域指導者の確保や資質向上を図るための研修会を実施する必要がある。これにより、持続可能なクラブ運営につなげていく。
- ・ 受益者負担の観点から、現在の活動費（月額500円）が妥当であるかについて、教育委員会内や推進委員会議等で検討し、必要に応じて引き上げも含めた見直しを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 定期的な『地域クラブ活動だより』を発行し、保護者に対して地域展開に関する理解啓発を行った。
- 指導者不足や保護者の理解が得られにくいといった課題を抱える実施主体については、継続的に会議を実施することで、地域展開に向けた支援を行った。
- 毎月、各クラブを巡回し、課題のヒアリングや助言等を行った。
- 推進委員会の調整等を行い、関係団体との連携を図った。
- 学校、参加者、地域指導者との連絡調整を行った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 業務委託先と連携し、保護者会および地域指導者との連絡調整を行い、事業の円滑な実施に努めた。具体的には、日程調整や連絡事項の共有、問い合わせ対応等を適宜実施した。
- 生徒登録や地域指導者の実績報告については、専用アプリを活用して運用し、情報の一元管理や報告業務の効率化を図った。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 保護者会及び地域指導者を対象とした救命講習会を実施した。
- 救急対応マニュアルを作成し、各実施団体へ周知した。
- コーディネーターが実施団体を定期的に訪問し、課題の洗い出しや解決方法について助言した。
- 熱中症計の配布やクールダウン室の設置等、熱中症対策を実施した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 緊急対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方針について共通理解を図った。
- 生徒同士のトラブルについては、学校と連携し対応した。
- トラブルや事故が発生した場合は、保護者会が主体となって連携しながら解決にあたり、運営団体は保護者会からの連絡を受け、具体的な対応策の検討を共に行っている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・ 地域指導者に対して資質向上のための研修を年2回以上実施する。本年度は消防署の協力を得て、「救急救命講習」を実施する。
- ・ 地域指導者には、県が主催する「地域クラブ指導者育成研修会」への参加を依頼し、資質向上を図る。

取組の成果

- ・ 全ての実施主体において、1名以上の指導者を確保することができた。
- ・ 指導ライセンスを未所持の指導者に対し、県主催の「地域クラブ指導者育成研修会」への参加を積極的に働きかけた。その結果、認定証の取得者が増加し、指導に関する知識や技能の向上など、指導者の資質向上につながった。
- ・ 救命講習会の受講を推進したことで、心肺蘇生やAEDの使用方法など、緊急時に必要な対応を身につけた地域指導者を育成することができ、安全管理体制の強化につながった。

今後の取組における課題

- ・ 現在、地域指導者が1名で対応しているクラブが複数ある。市としては、安全面を考慮し、指導者は複数名で指導にあたる体制が望ましいと考えており、指導者の確保に引き続き努めていく。
- ・ 技術指導については十分に実施できているものの、生徒指導面において問題が発生したケースがあった。学校との連携を含め、課題解決に向けた対応策を検討していく。

課題への対応方針

- ・ 県の人材バンクとの連携に加え、新たに市独自の人材バンクを立ち上げた。広報誌等で周知を図り、地域指導者の確保を進めていく。
- ・ 生徒指導の観点においては、学校と地域クラブとの連携が円滑に図られることが不可欠であり、その重要性を改めて認識した。特に、生徒の状況や日常の様子を把握している学校と、実際に指導を行う地域指導者との間で情報共有を適切に行うことが、生徒の健全な成長を支えるうえで重要である。そのため、地域指導者や保護者会、学校の顧問との連携を円滑に進めるための調整役として、コーディネーターを配置するなど、市として組織的に対応できる体制の整備を進めていく。これにより、関係者間の情報共有や課題対応を円滑に行い、生徒にとって安心・安全な活動環境の確保につなげていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 地域指導者の委嘱式の際に、研修会を実施し、指導者に求める姿について学ぶ機会を設けた。

指導者研修の内容

研修名	地域指導者委嘱式兼研修会
講師	朝日大学 教授 山本 英弘氏
研修内容	指導者に求められる指導の在り方 行き過ぎた指導やハラスメント対策等について、 様々な研究結果をもとに見解を示した。

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

勝敗にこだわり過ぎないこと、競技性に走り過ぎないことの加減が正直難しいと感じた。

参加者②

指導する際にどのようなことに注意を払わなければならないかが改めて、よくわかった。

参加者③

技術指導だけではなく、子どもたちの心のケアもできる指導でなければならぬと実感することができた。

参加者④

研究結果をもとづいた話であったのでとても勉強になった。今後の指導に生かしていきたい。

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 講習会を周知する。
- 地域指導者委嘱の条件として「認定証所持」を定めた。
※今年度に限り、取得見込みも可とした。
→未所持の方は「地域クラブ指導者育成研修会」の講習会に参加した。

指導者総数	92人
資格所持指導者数	60人
本年度資格を取得した指導者	32人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 今年度は休日部活動の地域展開の推進を行ってきたため、平日については現状、学校による部活動指導となっている。
今後、平日の地域展開を推進していくために、教育委員会内や推進委員会等で市としての方針を検討していく。
- 地域指導者（休日指導）と顧問（平日指導）、そして保護者会の連携が図れるように、学校側に説明を行った。
また、実施主体ごとに練習メニューや、生徒の様子について等情報共有するように促した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・ 地域展開を学校と連携して進めていくことが重要であるとの認識から、中学校長やPTA等に対し、本市の取組及び今後の見通し等について説明を行う。
- ・ 地域指導者の派遣、施設利用、研修教材の提供・講師派遣等について、朝日大学との連携を図る。
- ・ 市内循環バスを活用し、生徒が活動場所まで移動するための手段を確保する。

取組の成果

- ・ 中学校長やPTA等を訪問し、市内中学校の全生徒へ事前周知チラシを配布するとともに、学校の協力を依頼した。
- ・ 各実施主体が活動する際には、地域指導者が競技指導に専念できるよう、会場の施設・開場、参加者の出欠確認等を行う保護者会役員を配置した。
- ・ 学校関係者、体育協会、文化協会等の市内各種団体の代表で構成する推進委員会のメンバーに協力を依頼し、地域一体となって運動部活動の地域展開に向けた環境整備を進めた。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- ・ 地域展開の推進に関わって、スポーツ推進委員との取組の実施はなかった。
- ・ 今後、平日部活動の展開については、地域クラブ推進会議への参加等スポーツ推進委員の協力を得ていきたい。

今後の取組における課題

- ・ 地域クラブへ展開後、顧問・保護者・地域指導者間の連携が弱まり、保護者の負担が増大していることが課題である。
- ・ 市内循環バスを活用した生徒輸送について、運用方法の具体化が進まず実施に至っていないことが課題である。
- ・ 朝日大学との連携を図り、地域指導者の確保及び指導力向上につなげていく必要がある。

課題への対応方針

- ・ 教員の働き方改革を推進していく中で、顧問・保護者・地域指導者が連携できる環境づくりを、学校と協力しながら進めていく。
- ・ 今後、合同クラブでの活動が想定され、生徒の移動距離が長くなることから、市内循環バスを活用した生徒輸送が可能となるよう、具体的な運用方法を市役所内の関係課と検討していく。

地域公共交通との連携に関する取組

- ・ 市内循環バスを活用して、生徒が活動場所までの移動手段として確保していたが、具体的な運用方法の検討ができなかったため、今年度は実際の運用には至らなかった。
- ・ 今後は合同クラブ設置等の関係で移動距離が長くなることが想定されるため、市役所内の他課と連携を図り、運用可能になるように準備を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・ 現在は、各中学校が地域クラブ活動へ移行しているためエリア設定を行っていないが、今後は設定の必要性について検討する。
- ・ エリア設定についてはあくまで目安とし、エリア外の生徒も参加できるように運用する。
- ・ 活動場所や指導者の確保については、関係者と連携しながら進める。
- ・ 瑞穂市教育委員会生涯学習課に地域クラブ事務局を設置し、統括コーディネーターが関係団体等との連絡調整を担う。

取組の成果

- ・ 柔道クラブにおいて、3中学校合同による地域クラブを立ち上げることができた。
- ・ 地域クラブ活動への参加を希望する生徒について、活動エリア外からの参加であっても受け入れ可能な体制を整えた。
- ・ 市外の学校に在学しているが市内在住の生徒についても、地域クラブへの受け入れを行った。
- ・ 近隣自治体の「緊急対応マニュアル」を参考にし、市独自の「緊急対応マニュアル」を作成して、指導者及び保護者会へ周知することができた。

今後の取組における課題

- ・ 今年度は、各中学校の休日部活動を地域クラブへ展開する取組を推進してきたため、広域的な取組を具体的に実施するまでには至らなかった。しかし、少子化の進行を踏まえると、今後は広域的な取組が必要となることが想定されるため、その在り方について検討を進めていきたい。

課題への対応方針

- ・ 少子化の影響や指導者不足の観点から、今後、中学校単独でのクラブ運営が困難になることが想定される。そのため、市内合同クラブの立ち上げや近隣自治体との合同クラブ運営が行われる可能性を踏まえ、近隣自治体との連携強化等、必要な準備を進めていく。

市区町村等を越えた取組

- ・ 緊急時の対応について、市として、地域クラブに明確に示すことができていなかった。そのため近隣自治体の「緊急時マニュアル」を参考に、市独自の『緊急対応マニュアル』を作成した。
- ・ 作成したマニュアルについては、指導者や保護者会に配布し、市として、緊急時にどう対応するのかを明確に示すことができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

地域クラブ活動への展開に関する保護者説明会では、既に展開している保護者の意見を紹介しながら、活動内容や工夫した点を説明した。

【具体的な内容】

- ・ 瑞穂市における地域展開の在り方
- ・ 地域展開を実施している団体の保護者の声
- ・ 手続き（Web登録）の方法
- ・ 「中学校選手派遣補助」を設け、地域クラブ活動においても中学校体育連盟主催の大会や各種大会等への参加に要する経費を補助した。また、バスの借上げについても、条件を満たした場合は補助を行った。

取組の成果

保護者説明会では、参加者から以下のような意見が寄せられた。

- ・ 保護者同士のつながりが大切であること
- ・ 子どもが頑張っている姿を、当番として間近で見届けられることができること
- ・ 中学校顧問の先生との連携が不可欠であること

これらの意見から、説明会が地域展開の理解促進につながったことが分かった。

部活動時にはなかった「中学校選手派遣補助」を活用し、地域クラブ活動へ展開したことでメリットを感じた実施主体があった。

今後の取組における課題

- ・ これまでは「地域クラブに展開すること」を中心とした説明であったが、今後は保護者会の世代交代を見据え、「地域クラブの運営方法」を主題とした説明へと転換していく必要がある。
- ・ 補助対象大会について、当初は4月時点で「地区大会以上」としていたが、8月から「県大会以上」へと変更した。しかし、チーム数減少の影響により、地区大会を経ずに県大会を実施する競技が増えているため、収支バランスを踏まえた補助対象のさらなる見直しが必要である。

課題への対応方針

- ・ 今後の保護者説明会では、地域クラブの業務委託先の担当者にも参加を依頼し、保護者が担う実務について具体的に説明することで、地域クラブ運営が円滑に進むようにしていく。
- ・ 今後、補助申請やバスの借上げを希望するクラブが増加した場合、財源確保が課題となるため、補助対象の精選や活動費の引き上げ等について検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

瑞穂市地域クラブ活動費については、地域クラブに所属する生徒に対し、受益者負担として1人あたり月額500円（年間6,000円）を設定した。

取組の成果

受益者負担を導入したことにより、地域クラブ活動費として年間2,219,500円の収入を確保することができ、持続可能な地域クラブ運営体制を構築することが可能となった。

今後の取組における課題

4月から地域クラブとして活動することを前提に、地域クラブ活動費を試算している。しかし、今年度は、多くのクラブが9月以降に地域クラブへ展開したため、当初の見込みより収入が少ない結果となった。

課題への対応方針

今後、国及び県からの財源が確保できなくなった場合、どのように地域クラブ活動を運営していくかが大きな課題となる。「活動費」に絞って参加者に負担を求める方法も考えられるが、一定の参加人数が確保できなければ運営費を賄うことができず、持続可能性の観点からも課題が残る。そのため、低廉な受益者負担を前提としつつ、企業協賛や行政支援を含め、持続的に活動できる仕組みを構築していく必要がある。

●収入(3月見込み)

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	2,219,500	100%
事務局運営費	0	—
合計	2,219,500	—

収支バランス

【3月見込み】

収入：¥2,219,500

支出：¥14,115,572

収支：－11,896,072

4月から地域クラブとして活動することを前提に、地域クラブ活動費を試算している。しかし、今年度は、多くのクラブが9月以降に地域クラブへ展開したため、当初の見込みより収入が少ない結果となった。

□「活動費」「部費」を管理する（会計）

【活動費】
・活動費として生徒一人につき月500円を市に支払う。保護者会にて、7月、11月、2月の年3回、4か月分（2,000円）をまとめて集金し、指定日までに支払う。3年生は、7月（4月から7月分）にのみ集金する。活動を継続する場合は、下の表にならって支払いを行う。活動費は、地域指導者の報償費や保険代、大会参加費補助、システム運用費等に充てる。
※活動費の支払い（一人当たり）

振り込み月	1・2年生	3年生
<1回目> 7月（4、5、6、7月分）	2,000円	2,000円
<2回目> 11月（8、9、10、11月分）	2,000円	—
<3回目> 2月（12、1、2、3月分）	2,000円	—

※新規加入者（1年生・途中入部者）については、加入月から支払う。
（例：5月1日に加入した場合は、5、6、7月分を7月に支払う。）
※退部者は、加入していた月の分を支払う。
（例：6月に退部…4、5、6月の3か月分を7月に支払う。）

【部費】 ※各団体で金額を設定
・消耗品（ボール、シャトル、マーカー、救急道具等）の購入を行う。
・大会参加費等に使用する。

【出典：瑞穂市教育委員会】

●支出(3月見込み)

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	8,644,272	61%
諸謝金（指導者）	8,254,000	96%
会場使用料	0	—
消耗品費	100,000	1%
印刷製本費	0	—
携帯電話レンタル料	0	—
雑役務	100,000	1%
生徒保険料	0	—
指導者保険料	190,272	2%
事務局運営費	5,471,300	39%
謝金	96,000	2%
会場使用料	0	—
スポーツ教室開催費	0	—
保険料	0	—
人件費	3,595,000	66%
交通費	0	—
印刷製本費	0	—
消耗品費	0	—
備品購入	0	—
通信運搬費	61,000	1%
修繕料	0	—
振込手数料	0	—
業務委託費	1,719,300	31%
消費税相当額	0	—
合計	14,115,572	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

部活動の地域展開という観点から、地域展開後も部活動と同様に学校施設を利用できるようにする。また、利用料については減免措置を講じ、体育館については空調を含めて無料で利用できるようにする。

取組の成果

全ての実施主体が、部活動と同様に中学校の体育施設を使用して活動を行った。また、自治会や各種団体の利用により中学校施設が使用できない場合には、小学校施設を活用する等して調整を行い、地域クラブの活動時間を確保することができた。

今後の取組における課題

これまでは部活動の顧問同士が活動場所を調整していたが、地域クラブへの展開後は、保護者会同士の調整や、事務局として教育委員会が調整に関わる場面が増えたことで、保護者の負担が増加した。また、調整の過程でダブルブッキングや予約漏れといったミスが発生するケースも見られた。

課題への対応方針

- 活動日にスポーツ少年団等他団体が同じ施設を利用している場合も見られることから、今後も調整を行いながら、運営主体がバランスの取れた活動場所の配分を進めていく。
- 利用施設の申請や調整において人為的なミスが発生していたため、市の施設予約システムを活用し、ミスの防止を図っていく。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 学校施設利用の際の利用料や空調使用に関わる料金において、全ての地域クラブは免除とした。
- 各地域クラブの部室の鍵については、スペアキーを作成し、保護者会で管理を行った。

用具使用・管理等における取組

- 施設の鍵については、市の公共施設にて管理を行ったが、用具使用や管理については、基本的に部活動と同様の運用で実施した。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

瑞穂市における休日部活動の地域展開を、生徒にとって望ましい形で実現するため、市の現状を踏まえながら「子どもたちに軸足を置いた地域クラブ活動」の実現に向けて取組を進めてきた。瑞穂市としては、次の点を重点に据えて進めてきた。

1. 令和7年度末を目途に、学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させつつ、地域クラブ活動への展開を図ること。
 2. 持続可能な運営体制の構築を目指し、瑞穂市教育委員会を中心に関係団体が連携して検討・運営を行うこと。
 3. 活動運営は「保護者会」、地域指導者の登録・連携等は「総合型地域スポーツクラブ」、事務局運営は「教育委員会（生涯学習課）」が担うこと。また、取組の内容は次のとおりである。
- ・ 学校、保護者会、地域指導者等との情報共有と連携を行うこと。
 - ・ 地域クラブ活動中に問題が発生した場合には、関係者が連携・協力して対応すること。
 - ・ 中学校顧問についても、地域指導者として登録するよう積極的に働きかけること。
 - ・ 生徒に過度な肉体的・精神的負担がかからないよう、十分な配慮を行うこと。

今後も以上の点を大切にしながら、「子どもに軸足を置いた瑞穂市地域クラブ活動」の運営を継続していく。

●成果の評価

瑞穂市内の3中学校では39種目の部活動（スポーツ系）が活動している。令和7年12月現在、そのうち33クラブが地域クラブ（合同クラブを含む）として活動しており、令和7年度末をもってすべての部活動が地域クラブへ展開する見通しが立った。このように、目標としていた「令和7年度末までの全ての休日部活動の地域展開」は達成された。

一方で、地域クラブの運営を進める中で、生徒指導面や地域指導者の資質向上等、新たな課題も明らかになってきた。これまでは「地域クラブへの展開」を主眼として取組んできたが、今後は「地域クラブの持続可能な運営」に重点を置いて事業を進めていく必要がある。

●今後に向けて

今後は、新たに浮き彫りとなってきた課題（指導者の資質向上、財源確保等）の解決に向け、各種団体と協議を重ねながら地域クラブの運営を進めていく。また、活動の運営は「保護者会」、指導者の登録・連携等は「総合型地域スポーツクラブ（Link-upみずほ）」、事務局は「教育委員会（生涯学習課）」がそれぞれ担当する体制を維持し、瑞穂市教育委員会を中心に関係団体と連携して検討・運営を行うことで、持続可能な運営体制の構築を目指していく。

2.実証内容と成果②

参考資料



【剣道クラブ 練習の様子】



【ダンスクラブ 練習の様子】



【ソフトボールクラブ 練習の様子】



【サッカークラブ 練習の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



◇保護者（保護者会）【活動の運営】

- ・ 保護者・保護者会が地域クラブ活動の運営を行う。
- ・ 活動時、けがや問題が起きた場合に、現場の対応と連絡の対応を行う。
- ・ 学校から学校行事の一覧をもらい、内容を確認しながら活動計画を作成する。
- ・ 施設の予約申請については、瑞穂市教育委員会生涯学習課へ申請を行う。
- ・ 地域指導者の活動時間を毎月「Link-upみずほ」へ報告する。
- ・ 「部費」の管理や会計、指導者報償費の支払手続きを行う。

◇学校【活動のサポート】

- ・ 保護者・保護者会の地域クラブ活動をサポートする。
- ・ 保護者・保護者会の活動計画の作成について、学校行事等や大会等の確認を行う。
- ・ 地域クラブ活動の指導者や保護者・保護者会と情報共有し、連携を図る。
- ・ 地域クラブ活動中に問題が発生した時は連携・協力して対応に当たる。

◇地域【地域指導者、総合型地域スポーツクラブ（Link-upみずほ）】

- ・ 地域クラブ活動の指導者である「地域指導者」は、より専門的な指導を行う。
- ・ 地域指導者は、指導者ライセンス（県）や公認スポーツ指導者等の指導者資格を取得する。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ「Link-upみずほ」は、地域クラブ活動、保護者会、地域指導者、生徒の登録等の管理業務及び連絡調整を行う。

◇瑞穂市教育委員会【瑞穂市の取組について】

- ・ 瑞穂市教育委員会は地域クラブ活動の事務局として、瑞穂市の実情に応じた持続可能な活動体制の整備やより専門的な指導を安心して受けることができる機会の確保整備を進める。
- ・ 活動体制の整備として、「総括コーディネーター」を配置し、保護者、地域、学校との連携をサポートする。
- ・ 相談窓口を設置し、生徒、保護者、指導者、学校からの相談を受けられるようにし、問題発生時の報告も「統括コーディネーター」を中心に集約し、対応する。
- ・ 大会参加費、交通費・宿泊費及びバスの借り上げの補助を行う。※対象条件を満たす大会のみ

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に関する地域移行の推進に向けたロードマップ

